

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

平成 26 年度

子育てにおける

保護者支援と支援者研修事業

活動報告書

平成 27 年 3 月

特定非営利活動法人 アスペ・エルデの会

目次

1. 事業の背景・目的	2
2. 事業内容・事業実績	3
2-1 ペアレント・プログラムの内容.....	3
2-2 本事業におけるペアプロ実施の流れ.....	5
3. 対象者の反応・変化	6
3-1 全体の結果.....	6
3-2 北海道札幌市.....	10
3-3 福島県相馬市.....	13
3-4 福島県いわき市.....	16
3-5 静岡県富士市.....	19
3-6 愛知県名古屋市.....	22
3-7 奈良県香芝市.....	25
3-8 和歌山県岩出市.....	28
3-9 岡山県岡山市.....	31
3-10 徳島県徳島市.....	34
3-11 島根県益田市.....	37
3-12 山口県長門市.....	40
3-13 大分県国東市.....	43
3-14 長崎県対馬市.....	46
4. 全体の成果	49
4-1 各地域の支援団体との連携における成果.....	49
4-2 保護者支援における成果.....	49
4-3 支援者研修における成果.....	50
5. 今後の課題・取り組みについて	52
巻末付録	53

1. 事業の背景・目的

厚労省の児童虐待防止の取り組みにおいて、発生予防のための子育て支援事業の普及は喫緊の課題である。近年では発達障害を始めとした“育てにくい”子どもの特性、子どもを理解しづらいことによる保護者の不適切な養育という悪循環が指摘されており、まずは保護者が子どもの行動を客観的に理解するための支援が必要である。しかし、ペアレント・トレーニング（ペアトレ）に関しては、実施にある程度の専門性が必要であるために、全国的な普及に関しては課題を抱えている。加えて、子育て支援事業では、より経験のある保護者（たとえばペアレント・メンターのような先輩ママ）の活用も掲げられているが、十分とは言えない現状である。

アスペ・エルデの会が平成 25 年度に市町村の子育て支援担当部署および発達障害者支援センターに対して保護者支援について調査を行ったところ、ペアトレは自治体・民間いずれも 6～8 割が未実施の一方で、支援センターの 8 割以上が充実を望む支援サービスとして「ペアトレ等の連続講座の実施」を挙げていることがわかった。①の課題とこれらニーズを併せて考えると、本事業によって、当会が開発した、簡便で実施しやすい保護者支援である「ペアレント・プログラム」を、保育士や保健師等の専門職に加え、当事者団体の中核的メンバーである保護者や、ある程度子育てを終えた先輩ママなど保護者の立場からの子育て支援者が実施・運営に関与できる仕組みを作ることには保護者支援の充実に寄与すると考えている。本プログラムは子どもの行動の客観的理解および保護者の自己効力感向上を目指して開発したものであり、その効果は、プログラム実施前後のアンケート調査によって明らかになっている。したがって、子どもの育てにくさによる親子関係の悪循環を予防し、ひいては児童虐待の予防にもなることが期待できる。

以上より、本事業は、上記の背景のもと、子育てにおける保護者支援と支援者研修を行うことを目的として、北海道・福島・静岡・奈良・和歌山・岡山・徳島・島根・山口・大分・長崎の合計 12 の支援団体と連携し、当会が拠点とする愛知を含め、13 の地域で「ペアレント・プログラム」を実施した。

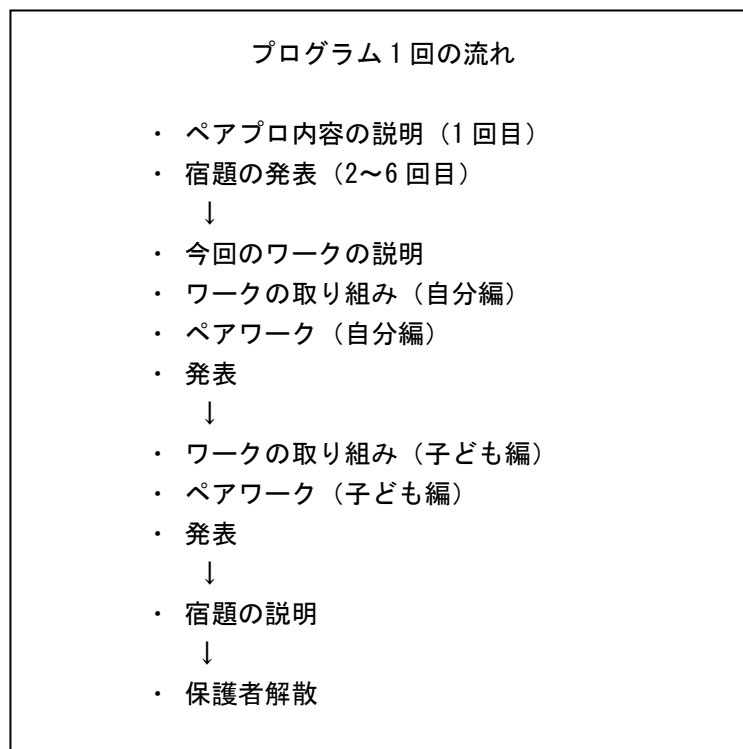
2. 事業内容・事業実績

2-1 ペアレント・プログラムの内容

ペアレント・プログラム（以下、ペアプロ）は、「行動で考える／行動で見る」ことに特化し、母親の認知的な枠組みを修正することを目指した簡易なプログラムであり、厚生労働科学研究辻井班＜H19-21年度 厚生労働科学研究障害保健福祉総合事業「発達障害児に対する有効な家族支援サービスの開発と普及の研究」（主任研究者：辻井正次）＞の成果を基にして開発が進められている。保護者支援の枠組としては、ペアレント・トレーニング（以下、ペアトレ）が長らく行われている。ペアトレは、応用行動分析（ABA）を基本に、子どもの行動のなかで目標行動を定め、行動の機能分析をし、環境調整や子どもへの肯定的な働きかけを習得していくことで子どもの発達促進を行うというものであり、精研式、奈良方式、肥前式など有効な効果が得られることが研究によって明らかになってきている。本事業で実施したペアプロは、そのようなペアトレの前段階の位置づけとしての保護者支援のプログラムと言える。

具体的な内容としては、ペアプロは原則として2週間に1回、全6回を1クールとし、約3ヶ月で実施するプログラムである。1回は1時間～1時間半程度であり、主に説明・ワーク・ペアワークによって構成される。ペアワークを効果的に進めるため、プログラムの参加保護者の人数は、10名程度を想定している。また、毎回宿題が出され、保護者にとってはいくらかの負担になるが、家でも課題を実施することによって、プログラム内容をより効果的に身につけることができる。

プログラム1回の流れを下記に、6回の大まかな内容を次ページの表に示す。



ペアレント・プログラムの内容（全6回）

第1回 現状把握表を書く！

近年の発達障害についての考え方をもとにした、以下のような導入を行い、保護者に基本的な考え方とプログラムの目的を伝える。目的を理解してから、現状把握表の書き方を説明し、実際に書いてみる。

- ・子どもの発達には多様性があること。
- ・子どもの状態を正常・異常の二択ではなく、連続的（スペクトラム）なものとして見ていく必要がある。
- ・子どもが特に苦手なことがある場合、うまくやる“コツ”を身につけるためには、得意なこと・苦手なことを具体的な行動で理解して、ほめていく必要がある。
- ・今回はプログラムの中で子どもの行動を見ることとほめるコツを学んでいく。

宿題：①現状把握表を記入すること。②配偶者など身近な大人をほめ、反応を観察すること。

第2回 行動で書く！

ペアで現状把握表を報告し合いながら、表現を修正する。「～ない」（例えば「片付けない」）という書き方を「～する」（例えば「出しっぱなしにする」）に直していく。

宿題：①現状把握表を追加すること。②配偶者や身近な大人をほめ、反応を観察すること。

第3回 同じカテゴリーを見つける！

ペアで話しあいながら、現状把握表に書かれた行動を、同じ時間帯のもの・同じ場所のもの・同じ活動のもの・似たような反応など、同じカテゴリーにまとめる。見つけたカテゴリーを発表する。

宿題：①現状把握表をカテゴリー別に分けること。②子どもをほめ、反応を観察すること。

第4回 ギリギリセーフを見つける！

ギリギリセーフの考え方（困ったところの中でもなんとかやれているところ）を説明し、ペアで相談しあいながら、互いに「ギリギリセーフ」を見つける。

宿題：①ギリギリセーフを見つけること。②子どもをほめ、反応を観察すること。

- ③（可能なら）配偶者や身近な大人の家族に現状把握表を見てもらうこと。

第5回 ギリギリセーフをきわめる！

ギリギリセーフをより詳しく見るために、困った行動とギリギリセーフ行動について、「いつ(時間帯)/どこで(場所)/誰と(相手)/何をしていると(状態)」その行動が起こるのか？ということを考える。（環境が整えられた）一番成功しやすい場面ではギリギリセーフが多いことも知る。

宿題：①現状把握表を完成させること。

- ②（可能なら）配偶者や身近な大人の家族に現状把握表を見てもらうこと。

第6回 ペアプロで見つけたことを確認する！

ペアプロの要点を振り返り、初回に作成した現状把握表と最終版の現状把握表を比較する。ペアで違いや発見を話し合う。

2-2 本事業におけるペアプロ実施の流れ

本事業は、通常の保護者支援としてのペアプロに加え、支援者研修としての実施も兼ねたものであり、支援者向けのセミナー、保護者へのプログラムの実施、支援者研修（保護者プログラムと並行）の3つで構成されている。

（1）支援者向けのセミナー

支援者を対象として、ペアレント・プログラム前にセミナーを実施した。（ただし、日程調整の関係で実施できなかった地域もある）（セミナー資料は巻末付録④を参照）

セミナーの内容としては、保護者支援におけるペアレント・プログラムの位置づけ、ペアプロの目標・意義、全6回の内容、毎回出される宿題の意味を伝え、後半は実際にペアプロで用いる「現状把握表」（巻末付録①）に支援者自身のことについて書いてみるというワークの時間を設けた。（時間の制約ですべてできなかった場合もある）

（2）保護者へのペアレント・プログラムの実施

参加保護者に対して、ペアレント・プログラムを実施した。対象となる保護者は、原則として小学校低学年までの子どもをもつ保護者としたが、それ以外の年代の子どもをもつ保護者であっても、強い希望があったり、各地域の人数の調整が必要であったりした場合には参加を受け入れた。（プログラムで用いたワークシート「現状把握表」は巻末付録①を参照）また、子どもの体調不良など、やむを得ない理由による欠席が出ることもあったが、その場合には、連携団体のスタッフやプログラムに参加している支援者から、次の回までに連絡をとってもらるか、次の回の時に始まりより少し早い時間に来てもらうかして、欠席した回の内容の説明を行った。このことによって、内容についていけないためのドロップアウトを防いだ。

全6回のプログラム終了後、連携団体との調整が可能な地域では、フォローアップのためのセッションを行った。

（3）支援者研修（保護者プログラムと並行）

本事業は、支援者研修も兼ねており、参加支援者は、プログラム実施時に同じ室内で保護者たちが座っている場所から少し離れた後ろの方に座り、プログラムの進行を見学およびワーク時のサブスタッフとして参加した。プログラム中のワーク時のサブスタッフの役割としては、ワークを行う保護者（ペア）の見守り、もしくは、保護者のワークの理解度や進行に合わせて声かけをすることであった。毎回のプログラム前後には支援者のみのシェアリングの時間をとり、その日のワークの内容の確認、保護者の様子の共有、次回のワークのペア決めを行った。また、支援者にはアスペ・エルデの会が作成した「ペアレント・プログラム実施マニュアル」を無料で配布した。

3. 対象者の反応・変化

本事業全体の参加人数・アンケート結果、および、各会場で実施した日程、参加者人数およびアンケート結果を示す。(アンケート用紙は巻末付録⑤を参照)

3-1 全体の結果

(1) 保護者のアンケート結果

参加者 : 160名 (回によって増減あり)
調査用紙回収人数 : 108名 (男性3名, 女性105名)

① 平均年齢

保護者 : 40.29歳 (SD=5.48, 範囲30~54歳)

プログラムで対象とした子ども : 7.16歳 (SD=3.65, 範囲1~18歳)

② 参加者の職業と勤務形態

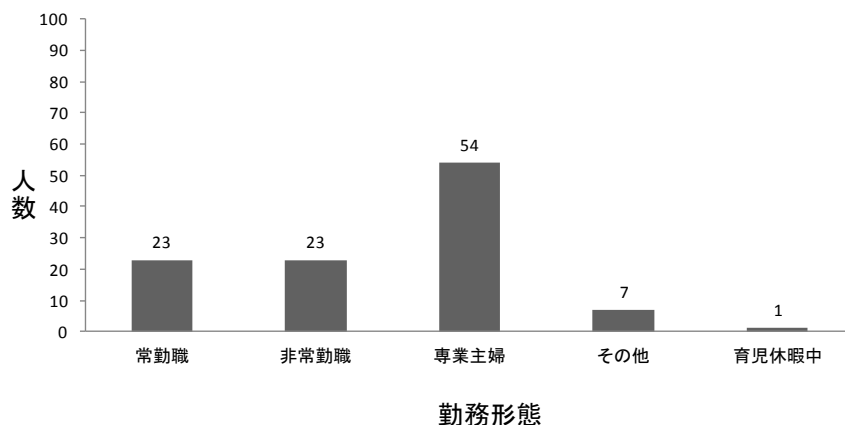


図1. 参加者の職業と勤務形態

③ プログラムへの満足度

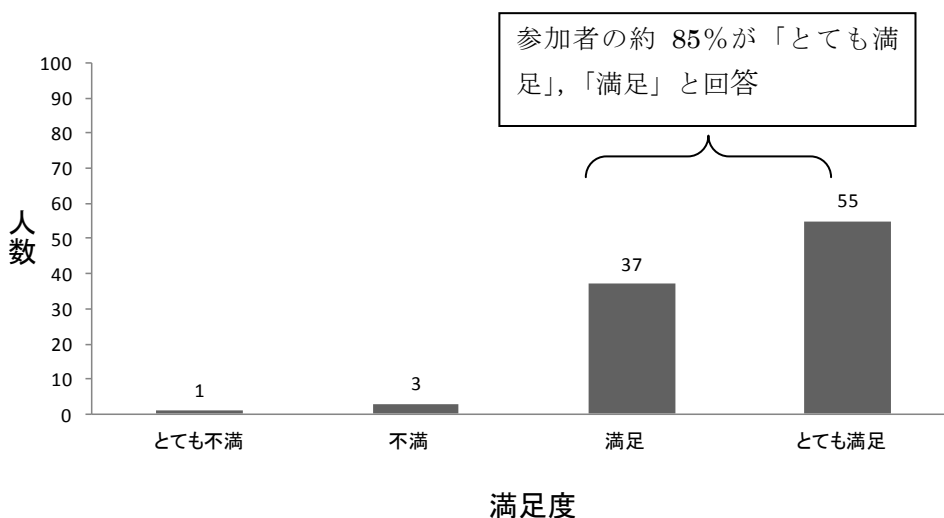


図2. プログラムへの満足度

④参加者同士でペアになって話し合ったり，発表したりしたことはいかがでしたか？

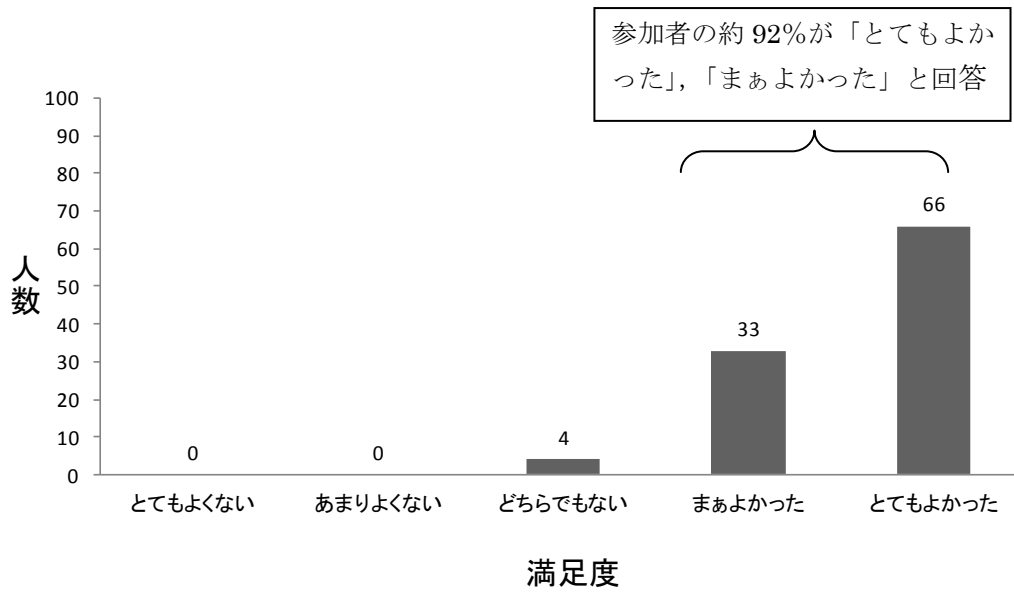


図3. ペアワークへの満足度

⑤ペアプロで取り上げる内容・テーマは，満足されるものでしたか？

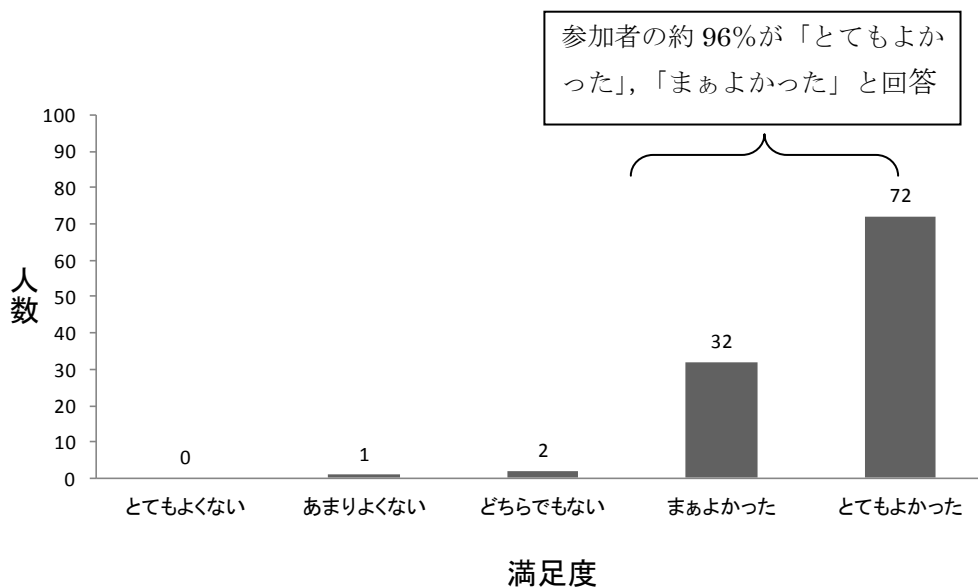


図4. 内容，テーマへの満足度

(2) 支援者のアンケート結果

支援者 : 176名 (回によって増減あり)

調査用紙回収人数 : 143名 (男性 19名, 女性 124名)

① 支援者の平均年齢と平均支援年数

平均年齢 : 41.09歳 (SD=11.28, 範囲 22~66歳)

平均支援年数 : 7.81年 (SD=8.10, 範囲 5ヵ月~37年)

年代	人数
20代	28名
30代	44名
40代	29名
50代	34名
60代	6名

② 支援者の職種と資格

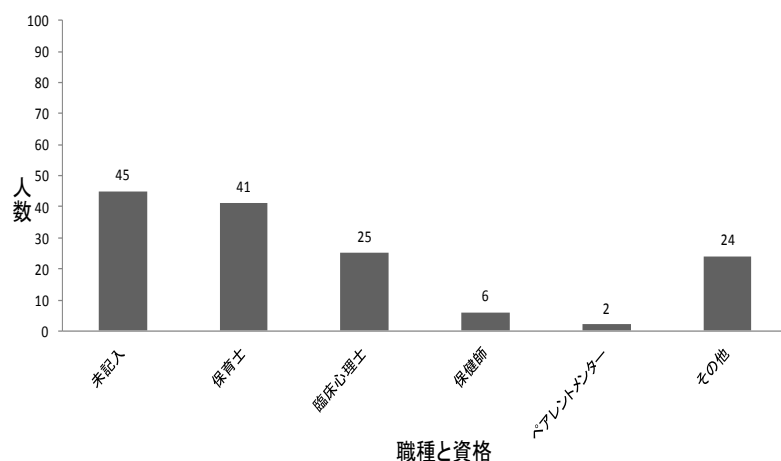


図1. 支援者の職種と資格

③ プログラムへの満足度

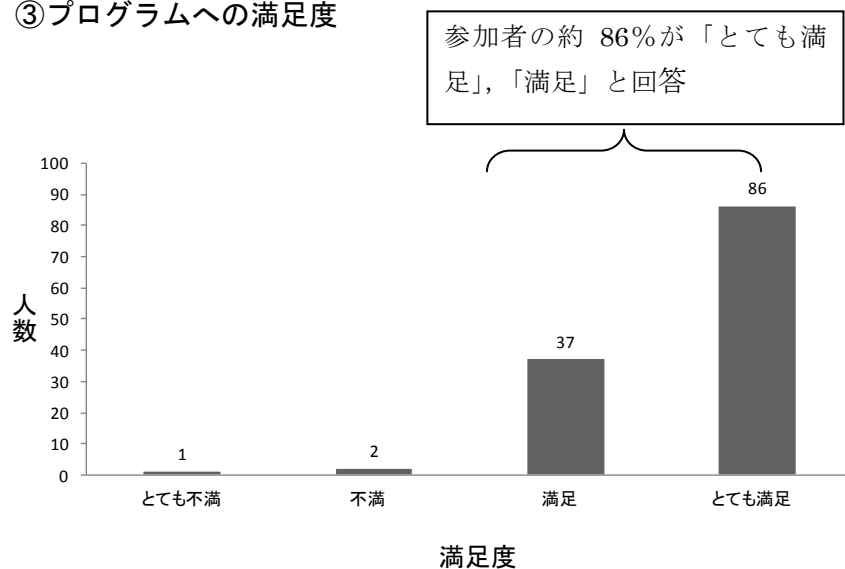


図2. プログラムへの満足度

④内容・テーマは職員向け研修として満足できるものでしたか？

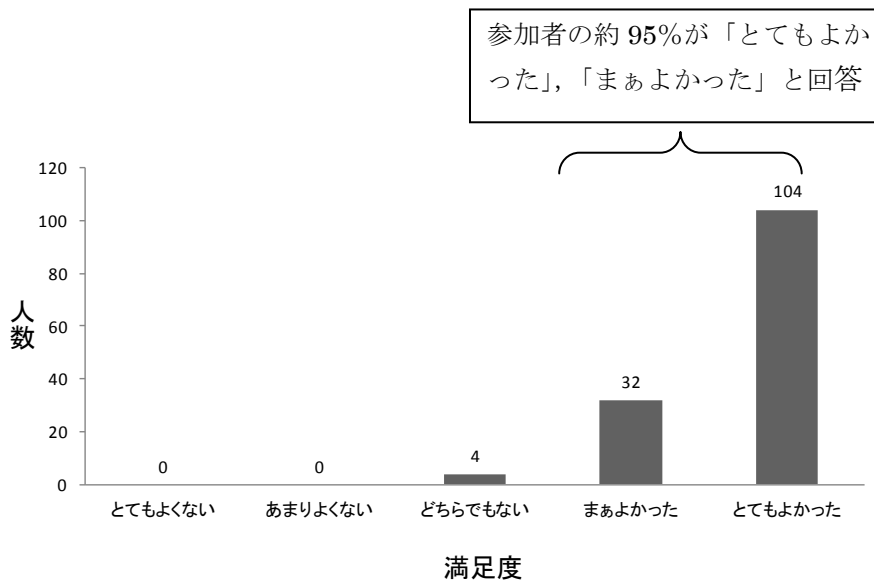


図3. 職員向けの研修としての満足度

⑤ペアプロが取り上げる内容・テーマは、保護者のサポートとして役立つものでしたか？

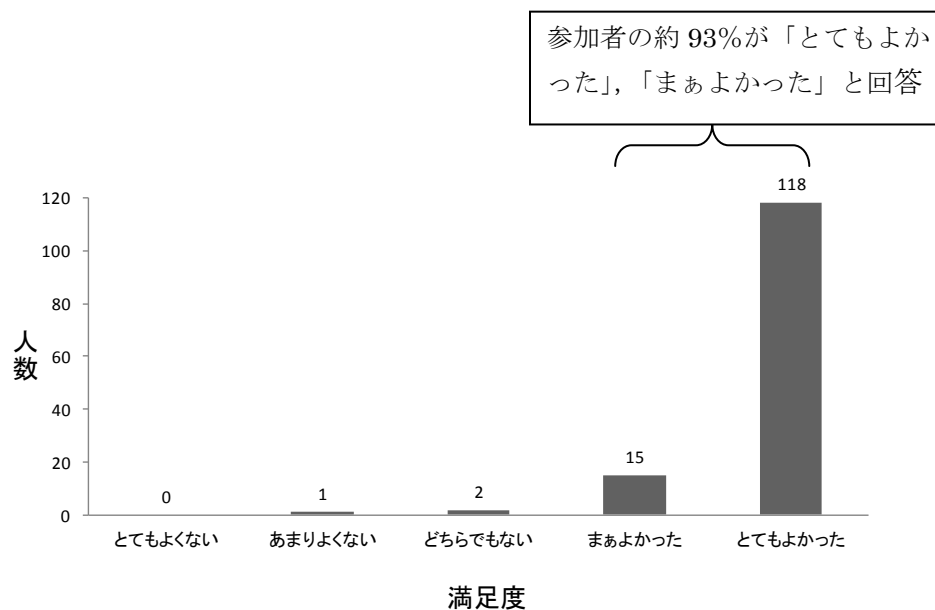


図4. 内容・テーマが保護者のサポートとして役立つか

・講演会などは聞くだけで良いお話は聞けますが、自分の気持ちが軽くなるわけではないので今回のプログラムはとても為になりました。

・6回目のころになると参加者もみな気持ちが熱くなっていて話もたくさん出てくるので4人ぐらいでグルーブトーク等もできたらよかったです。ペアの人が大体固定していたので他の人とも話してみたいかったです。

・時間が短くてもう少しゆっくりと話を聞きたいと思いました。

・これからの子育てで一番やっていけそうなことでよかった。

・1, 2回目の頃はうまく内容がつかめなかったけれど、少しずつやり方などがわかってきたら、行動を同士で核などができてきたので、楽しく参加できました。

3-2 北海道札幌市

(1) 実施日時

セミナー : 9/26

プログラム : 10/17(金), 10/31(金), 11/14(金), 11/28(金), 12/12(金), 12/26(金)

参加者 : 保護者 13 人, 支援者 7 人 (回によって増減あり)

(2) 保護者のアンケート結果 (調査用紙人数=11 名)

①平均年齢

保護者 : 46.77 歳 (SD=3.98, 範囲 39~52 歳)

プログラムで対象とした子ども : 9.64 歳 (SD=4.20, 範囲 1~14 歳)

②プログラムへの満足度

とても不満	0 人
不満	3 人
満足	4 人
とても満足	3 人

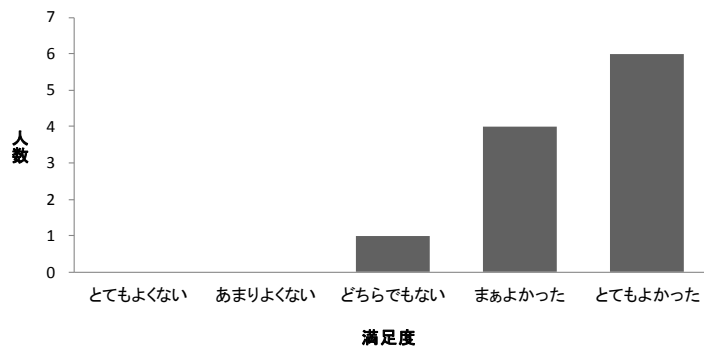
③お子さんへの関わり方について良かったこと・気づいたことはありますか？

-
- ・苦手なところがたくさんある子だと思っていたのが、本人なりににがてを克服しようとしていることがよくわかった。
 - ・息子の具体的な良いところを発見する機会になりました。特に他の保護者の発言を聞いて「そうか、それも息子ではできるな」とたくさん気づいたことが良かったです。なので認める事がスムーズにできました。
 - ・子供も困っているんだな、努力しているんだな、と考えられるようになったかなと思います。少しは優しいお母さんに変えたかも…と思います。
 - ・いつもほめるところはないか、見ているようになりました。目が皿の状態です。肯定的に見られるようになって嬉しいです。ありがとうございました！
 - ・ギリギリセーフ行動をもっとみつけてあげて、しっかり分析してみれば少しずつ段階をふんで改善することもできるのでは？と気づき、これからもっと子どものことをいろいろな視点からみつめて考えていこうと思いました。
-

④あなた自身について良かったこと・気づいたことはありますか？

-
- ・なんで自分ばかりがこんなに苦労しているのだと情けない気分によく陥っていたのが、かなり楽な気分になった。
 - ・一緒にプログラムを受けた保護者と更に親しくなれた事が一番良かったです。
 - ・困った行動について、子どもも親も「ギリギリセーフでなんとかなっているから、まあいいか…」と少し緩く考えられるようになりました。今まではキツキツだったので自分が苦しかった。
- 生活の考えてあげる時間が少なくなっていることに気がつき、客観的に物事をみるためにこれからも現状把握表をつけようと思いました。
- ・私の目線で将来的に子どもが困るだろうという心配から、叱ったり、忙しい思いをしたり、感情的になっているかに気づきました。少し子どもと距離を置いて私自身も楽な気持ちで接していこうと思いました。
-

⑤参加者同士でペアになって話し合ったり、発表したりしたことはいかがでしたか？



・発表するために、よく聞いたり、行動しなければならないのは、上手いなと思いました。全体的には、時間が短いように感じました。もう少し、お互いの物語を聞き合いながら納得するまで会話したくなりました。

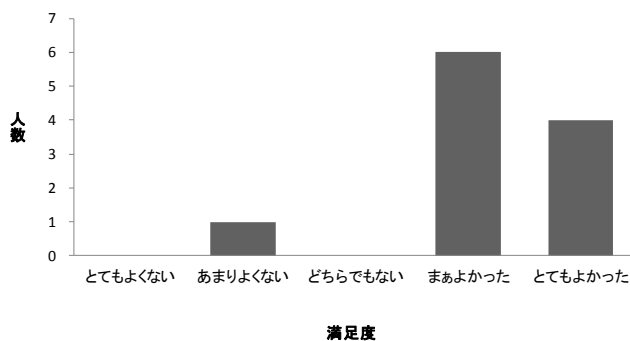
・子供の発達の度合いがそれぞれ違うと思いましたので、(また、お母さんの感じ方も微妙かなとも)少し気を使うかなと思っていましたが、相手に指摘されることで、自分がすごく困っていると感じていた事は、実は、違うのではないかと、もっと楽に考えたら…?と言われると、確かにそうだなーと考えさせられることが多かったです。お母さん方の発表が楽しみだったです。

・自分ではマイナスに思っていることを「そうでもない」と気づかせてもらえたり、褒めてもらえるのでいい気分になれました。ただ毎回宿題がたくさん出るので気が重かったです。プログラムの時間内に課題をやるように組み込まれていた方がうれしかったです。

・同じような問題で悩んでいたりと、自分とは違う解決方法を見つけたり、とほかのお母さん方と話すことはいつもためになることがいっぱいあります。自分以上にみんないろいろ考え努力していることに、自分ももっとがんばろうと励まされた気がします。

・相手の方をほめることにより、自分の家族へのほめ方の練習になっています。ほめることが自分も気持ち良いことをよく感じた。

⑥ペアプロで取り上げる内容・テーマは、満足されるものでしたか？



・「ほめる」がテーマですが、それよりソフトな「認める」という意識も教える必要があるのでは…と思いました。

・プログラムの1-2回目は正直、何をやっているのか意図がわからなくてとまどっていました。最終回に近づくと、ああ、こういうことだったのね、と自分なりに理解できました。

・ほめ方、お礼の言い方か？相手に届くように伝える方法がわかりました。また、お礼をするのもほめることになるのだと理解できました。

・どうしても子どもを”サポートする””ケアする”ことばかりに気がいってしまい、子どもを変えようとしていた自分に気づかされ、まず自分自身の気持ちから、自分自身の視点を変えることで、子どもの良い面や可能性、子どもなりに努力している姿が見えてきて、“行動を変える”ということが解決につながっていくことに気づけて良かったです。

・宿題が苦痛になってしまいました。日記のように毎日続けるように習慣できなかったのは、自分の責任ですが、これは訓練のためののですか？

(3) 支援者のアンケート結果 (調査用紙人数=6名)

① 支援者の平均年齢と平均支援年数

平均年齢 : 41.14 歳 (SD=11.89, 範囲 30~61 歳)

平均支援年数 : 10.00 年 (SD=6.72, 範囲 0~18 年)

② 支援者の所属機関と職種

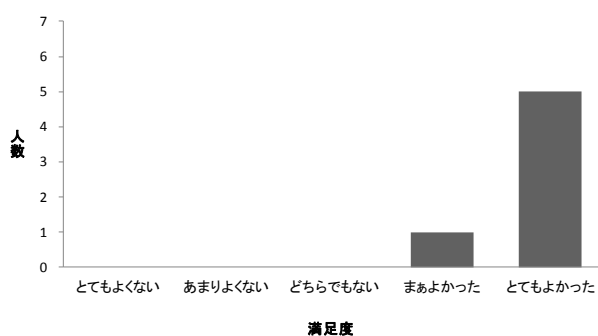
所属機関	札幌市児童診療センター	1
	札幌市自閉症発達障がい支援セ	4
	札幌市児童福祉総合センター	1
	札幌市役所	2
職種	臨床心理士	3
	臨床発達心理士	1
	保育士	1
	保健師	1
	社会福祉士	1



③ プログラムへの満足度

とても不満	0 人
不満	0 人
満足	3 人
とても満足	3 人

④ 内容・テーマは職員向け研修として満足できるものでしたか？



・とても勉強になりました。今後も札幌でも実施していければと思っており、実際に入ってみることで、イメージがしやすく、とても良い経験となりました。

・すすめ方、ポイントがあるのでわかりやすい。

・研修はよかったが実際に行うのは難しい

・事前に行動分析の基礎知識が少し必要になるかもしれない。また対象が幼児である場合は発達についての知識が必要かと思われる。

3-3 福島県相馬市

(1) 実施日時

セミナー : 11/12(水)

プログラム : 11/12(水), 11/19(水), 12/10(水), 12/17(水), 1/14(水), 1/28(水)

参加者 : 保護者 13 人, 支援者 9 人 (回によって増減あり)

(2) 保護者のアンケート結果 (調査用紙人数=7 名)

①平均年齢

保護者 : 37.46 歳 (SD=5.21, 範囲 30~47 歳)

プログラムで対象とした子ども : 4.85 歳 (SD=2.51, 範囲 2~11 歳)

②プログラムへの満足度

とても不満	1 人
不満	0 人
満足	2 人
とても満足	4 人

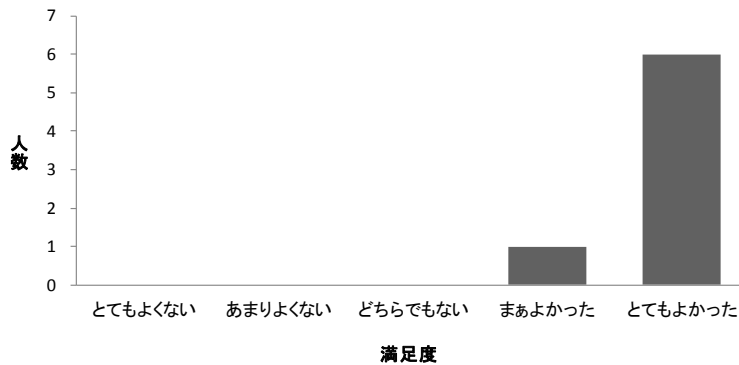
③お子さんへの関わり方について良かったこと・気づいたことはありますか？

-
- ・夜なかなか眠らないので困ってましたが、本人は眠る努力をしているんだなあと考えられるようになりました。
 - ・困った事を書き出す事で対処の方法がわかる様になった。
 - ・息子がした行動を悪いことばかりだと思っていたけど、思ったより良い所があるんだなと気づけたので良かったです。
 - ・ほめると自分にも余裕ができてきます。子どもに対する受け皿が大きくなった気がします。
 - ・いいところに目がいくようになり、子育てに関するストレスがほとんどといって言いほど減りました。
-

④あなた自身について良かったこと・気づいたことはありますか？

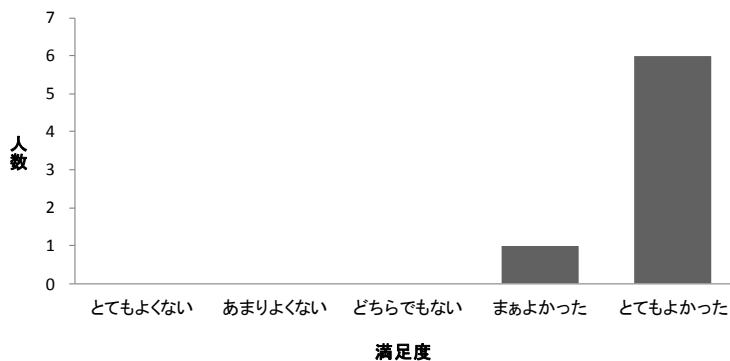
-
- ・考え方がゆるくなりました。
 - ・考えたり話合ったりする事で困った事についての見方が変わってどうすればよいのかわかる様になった事
 - ・なるべくほめ方を大きくしている内に息子を以前よりは怒ってないかもしれないと思ってよかったと思いました
 - ・余裕が出てきた。他にも悩んでる家族がいるから頑張ろうと思える。
 - ・自分の子どもが生まれるまで、子どもとの関わりが少なく、自分の子だけでなく、他の子にも同じように(問2の様に)感じることができるようになったと思います
-

⑤参加者同士でペアになって話し合ったり、発表したりしたことはいかがでしたか？



-
- ・若いお母さんの考え方が初心に戻してくれた気がする。
 - ・参加者それぞれの問題を聞くことで、自分の家での対応が楽になりました。
 - ・みんな十人十色なやみがあるなと思いました。
 - ・お互いの家庭での対応の様子がきけて参考になった。
 - ・他の家庭のことや子どものことが聞けて良かったです。
-

⑥ペアプロで取り上げる内容・テーマは、満足されるものでしたか？



-
- ・ギリギリセーフをみつけようの考え方がよかった。
 - ・困った事がいっぱいある中で、考え方やなおし方がいろいろな意見とかから、本人についていい事を選択できるので良かった。
 - ・紙に書きだすことで、いいところや困ったところのぼんやりとした感じが、ハッキリして、ほめ所、なおす(なおしたい)所が見つかりやすくなり、今後も困ったら書き出してみようと思いました。
 - ・講座も宿題等があり、自分を考えさせられたかなと思いました。
-

(3) 支援者のアンケート結果（調査用紙人数＝8名）

① 支援者の平均年齢と平均支援年数

平均年齢 : 35.44 歳 (SD=12.59, 範囲 23～54 歳)

平均支援年数 : 10.00 年 (SD=15.34, 範囲 2～33 年)

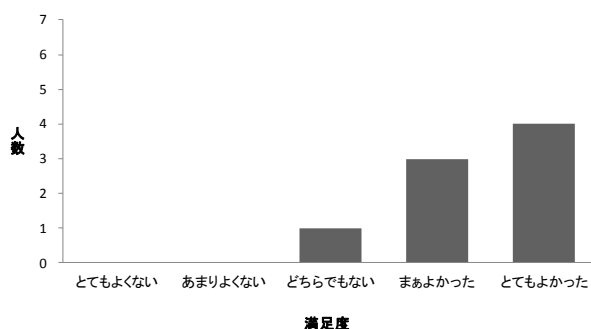
② 支援者の所属機関と職種

所属機関	きっずサポート「かのん」	1
	じゅにあサポート「かのん」	4
	福祉施設共生型ディサービス	1
	のびっこらんど相馬	2
	のびっこらんどキララ	3
	中村報徳保育園	1
	ゆうゆうクラブ	2
	相馬市保健センター	1
職種	心理士	1
	指導員	1
	保育士	3
	保健師	1
	支援員	2

③ プログラムへの満足度

とても不満	0 人
不満	0 人
満足	4 人
とても満足	4 人

④ 内容・テーマは職員向け研修として満足できるものでしたか？



・行動について考え、文章にすることにより、明確化され、困っていることについて具体的に配慮できることにより、子育てがしやすくなったと思いました。誉めることの良さを改めて知りました。

・ほめるということにも、実況放送のようにほめたり、言葉だけでなく、ハイタッチなどのサインがあると良い、「一分ルール」ということがあるのもただほめることではなくいろいろな手段があるということで、とても勉強になりました。

・さらにマニュアル追って、学習し自分のものにしていければと思います。(完全参加していないため、保護者への有効な視点を伝えられるか不安なところがあります。)

・今まで参加したことのない研修でペアレントプログラムというものがあることも知らなかったもので、今回参加させていただき、色々勉強になりました。また、自分の保育のあり方も見直すことができ、これから実践していきたいと思えます。どうもありがとうございました。

・今後、保護者との関わりの中で役立つことが多く、とても意義のある時間でした。

3-4 福島県いわき市

(1) 実施日時

セミナー : 10/1(水)

プログラム : 9/24(水), 10/8(水), 10/22(水), 11/5(水), 11/19(水), 12/3(水)

参加者 : 保護者 8 人, 支援者 12 人 (回によって増減あり)

(2) 保護者のアンケート結果 (調査用紙人数=8 名)

① 平均年齢

保護者 : 38.38 歳 (SD=4.66, 範囲 30~43 歳)

プログラムで対象とした子ども : 5.38 歳 (SD=1.60, 範囲 3~8 歳)

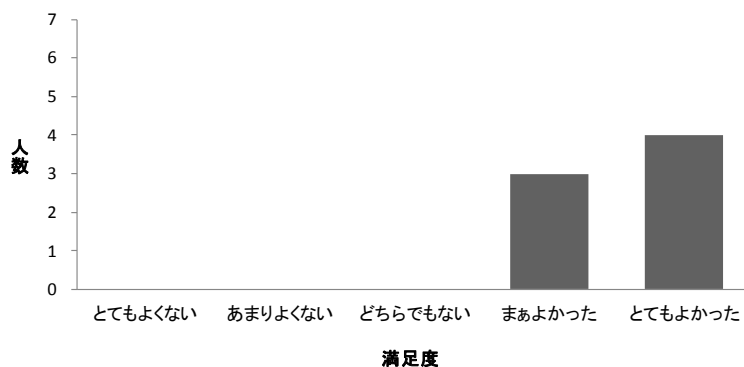
② お子さんへの関わり方について良かったこと・気づいたことはありますか？

-
- ・感情的になって怒ってばかりいても、子どもはやる気は起きないし、私の言うことも聞こうとしない事がわかった。
 - ・ほめることの大切さ。叱るよりほめる。
 - ・行動を肯定的に伝える。環境を変えることで困った行動を減らせる。
 - ・ほめることの大切さ・行動でみること
 - ・普段の生活の中で子供の「よいところ」に意識的に目を向けるようになった。・当たり前前の事、小さな事でもほめられるようになった。
-

③ あなた自身について良かったこと・気づいたことはありますか？

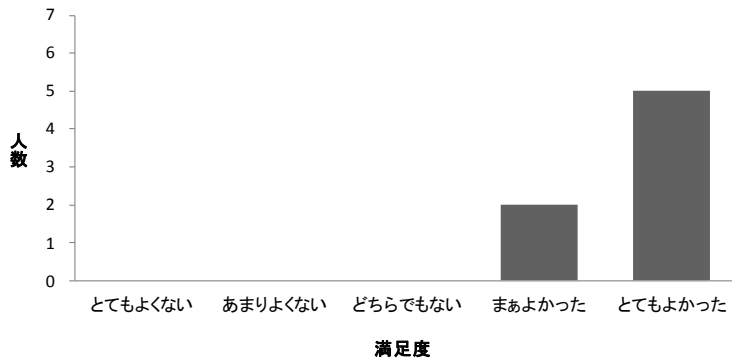
-
- ・家事や育児で疲れてくると子どもや旦那に八つ当たりしていたことに気付いた
 - ・私は、頑張っていると思う
 - ・大人は困ったことはほとんどなく、自分自身で解決できるが、子供はそれが出来ない。
 - ・イライラした時、少し間をおけることが増えた。
 - ・子育てをしている自分を誇りに思えてきた。自分で自分を認められるようになってきた。
-

⑤ 参加者同士でペアになって話し合ったり、発表したりしたことはいかがでしたか？



-
- ・他人の話を聞いて、私はまだ楽な方なんだと思い、もう少し頑張ってみようと思った。
 - ・初めは緊張した気持ちもあったけど、自分の話を聞いてもらえる事、伝える事で考えがより具体的になってよかった。
 - ・初対面の方ばかりだったので、話し合ったりすることで、すぐに打ち解けられた。また、同じような子育ての悩みや、ヒントを聞くこともできた。
 - ・1人1人発表することで、皆で悩みを共有し、解決できてとてもよかったと思う。
-

⑥ペアプロで取り上げる内容・テーマは、満足されるものでしたか？



・普段、他のお子さんの様子や子育てについてなど具体的に話を聞く機会がないので、いろんなタイプのお子さんがいたり、子育てがあったりするのが分かり、具体的なイメージを持って講座を受けられてよかった。

・“ほめて伸ばす”ことが良いことだとわかっていても、実際にどうすれば良いのかわからなかったので、具体例を挙げながらの内容はとても充実していて勉強になった。

子育て支援講座
子育ては楽しく！子育てのヒントを学ぼう

お子さんの生活を見つめ直し、成長の喜びをみんなで共有しませんか。
どの子もみんな頑張っています。生活がより豊かに展開される為にお子さんの個性に合った育て方をみんなで楽しく学びましょう。

どんなことをするの？

- ☆子どもの出来る事を褒めます → みんな頑張っている事に気付く
- ☆個性を知る → 適切な子育ての方法を知る
- ☆出来たことをほめよう → 子どものコミュニケーションが楽しくなる
- ☆共通の視点をもった子育て支援の仲間ができる → 友達が増える
- ☆自分自身を見つめ直す → お母さんも頑張っている → 楽しい子育てもシェアする

会場： いわき産業創造会館 4階 (LATOV)
講師： 福島大学 子どもメンタルヘルズ支援事業推進室
特任教授 奥田 美保先生
日程： 9月24日 10月8日 10月22日 11月5日 11月19日 12月3日
(いずれも水曜日です。全6回の連続講座、原則6回の参加となります。)
時間： 10:00~11:00 (10時開始です。5分前には入室してください。)

詳しくは「なすなホーム」にお問い合わせください。
社会福祉法人 いわき福祉協会
なすなホーム
〒970-8003 いわき市平字道馬平6
TEL. FAX0246-84-6636
E-mail nazuna@friend.ocn.ne.jp 担当 野木・田子
後援： いわき市教育委員会

子育て支援講座
ペアレント・プログラムの様子

(3) 支援者のアンケート結果（調査用紙人数=9名）

① 支援者の平均年齢と平均支援年数

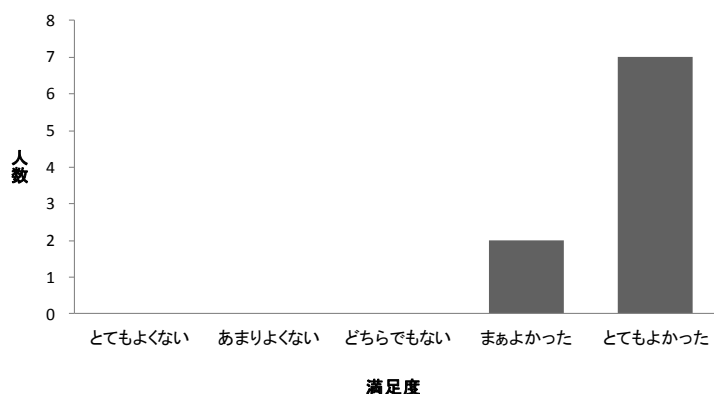
平均年齢 : 37.50 歳 (SD=10.67, 範囲 26~51 歳)

平均支援年数 : 1.31 年 (SD=1.10, 範囲 0.5~1 年)

② 支援者の所属機関と職種

所属機関	希望の杜福祉会のんびりハウス	2
	いわき市立すずかけ幼稚園	3
	NPO法人わくわくネットいわき ゆいまーるふたば	2
	いわき福音教会なすなホーム	1
	いわき養護学校	2
	児童発達支援センター エデンの会	1
	いわき市四倉久之浜大久地区保健福祉センター	1
職種	保育士	6
	保健師	1
	教員	2
	介護福祉士	1

③ 内容・テーマは職員向け研修として満足できるものでしたか？



・放課後支援では見ることのできない親子のやり取りを垣間見ることができとても勉強になりました。資料などがいただけるとよりわかりやすかったかなと思います。

・6回目だけの参加でしたので、皆さんの意見が肯定的に変わってきたところ、受け止め方が変わっている様子が見れました。変わっていくため、その前の先生のアプローチの仕方を学びたかったです。

・子どもの動かし方について勉強になりました。困り感の見方を変える事…実行してみようと思いました。

・相談を整理して聞くことで困っていること不安事へのアドバイスができると感じた。

・自分自身の支援も含め振り返ることのできる(様々な視点で)研修となり、今後も活かしていきたいです。

3-5 静岡県富士市

(1) 実施日時

セミナー : 2/17(火)

プログラム : 1/9(金), 1/16(金), 1/30(金), 2/13(金), 2/27(金), 3/6(金)

参加者 : 保護者 8 人, 支援者 13 人 (回によって増減あり)

(2) 保護者のアンケート結果 (調査用紙人数=3 名)

①平均年齢

保護者 : 41.38 歳 (SD=4.31, 範囲 34~49 歳)

プログラムで対象とした子ども : 7.00 歳 (SD=2.58, 範囲 4~11 歳)

②プログラムへの満足度

とても不満	0 人
不満	0 人
満足	1 人
とても満足	2 人

③お子さんへの関わり方について良かったこと・気づいたことはありますか？

・ふだんから、子供の行動をほめることをしているので、自分の行動の確認ができた。やっていることをただ「やっている」というだけでほめていることに気付いた。これは大収穫！

・ほめるという事が子供を安心させてあげたりやる気を出させてあげることにつながると感じました。

・いいところがたくさんあるとわかったこと。行動を具体的に「～したね」と伝えることでほめることになっていること。困っているところもギリギリセーフ行動で対応できる、親の心構えができるとわかったこと。

④あなた自身について良かったこと・気づいたことはありますか？

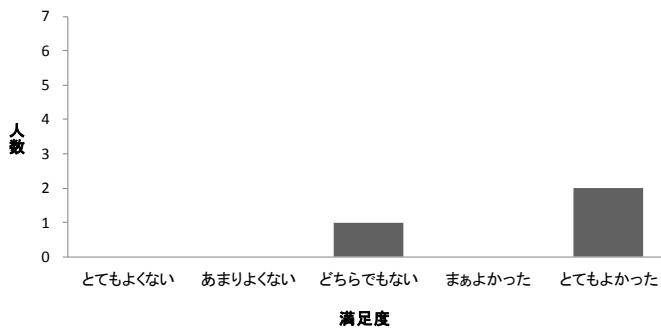
・自分のことを見直す機会が少なかったなので、自分は頑張っていることを再認識できた。

・困っていると感じたことも実はストレス発散につながっていたりプラスでも或ことに気づきました。

・自分にもいいところ、努力しようとしているところがたくさんある。困っていることも、それほど深刻な問題ではないこと。子どもの事を沢山考えているとわかったこと。

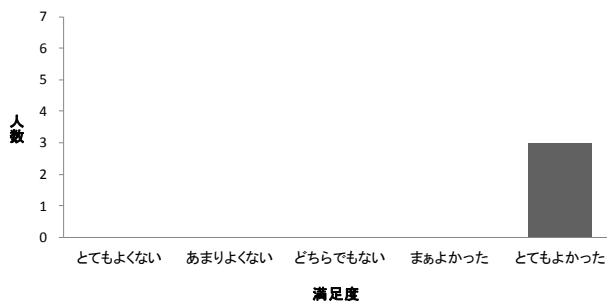


⑤参加者同士でペアになって話し合ったり、発表したりしたことはいかがでしたか？



- ・同じペアの方と組むことが多かったので、その方のパターンを知ってしまい、新たな発見が少なかった。相手のフォローに徹底してしまった。
- ・自分の枠にはまりがちですが新たな気づき、改善点を知ることができました。
- ・回を重ねるごとに打ち解けていくことも楽しかった。自分と異なる考え方に触れることで視野が広がる。(自分にとっての問題も他人にとってはそうではない)

⑥ペアプロで取り上げる内容・テーマは、満足されるものでしたか？



- ・問題行動については、親は既に毎日の関わりですぐに見つけることができる。そこをほめてあげること自己肯定感が育むことは理解している。できれば、良いところ、努力していること、困っていることについて話し合う時間を少なくし、トレーニングの方を充実していただけるとすぐ実践できたので、ありがたいと思う。(但し、親の理解力により行動を探す時間を多くとる必要があることはわかります)
- ・行動を細分化することでほめるポイントが増える。カテゴリ分けしたことで自分がどんなことに重きを置いているかわかったなど、気づきがあって面白かった。



(3) 支援者のアンケート結果（調査用紙人数＝8名）

① 支援者の平均年齢と平均支援年数

平均年齢 : 41.92 歳 (SD=13.70, 範囲 21～72 歳)

平均支援年数 : 5.72 年 (SD=4.28, 範囲 0.7～13 年)

② 支援者の所属機関と職種

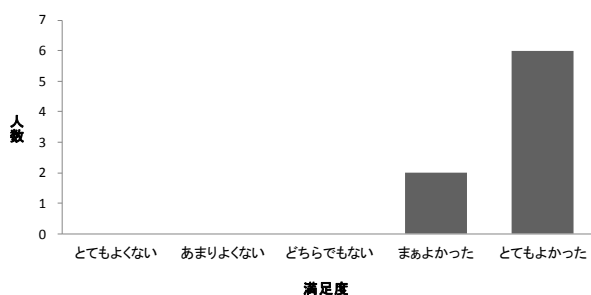
所属	きやある児童クラブ	1
	社会福祉法人 藤枝すみれ会	1
	サン・ビレッジ	2
	母の向上委員会	1
	特定非営利活動法人EPO	3
	野中保育園	2
	岩松北児童クラブ	1
	放課後等デイサービスみらい	1
職種	指導員	3
	社会福祉主事	1
	教員免許、S.E.N.S	1
	保健師	1
	教諭カウンセラー	1
	保育士	4
	児童発達支援管理責任者	1
	ヘルパー2級	1
	保育士、幼稚園教諭	1



③ プログラムへの満足度

とても不満	0人
不満	0人
満足	3人
とても満足	5人

④ 内容・テーマは職員向け研修として満足できるものでしたか？



- ・職場でも活用していきたいと思えるものがありました。
- ・行動で見る行動をなるべくブレイクダウンし褒めるポイントを見つけるというように焦点が絞られているのでやりやすいと感じております。
- ・ペアプロの目的が狭い範囲に限定されて分かりやすい。保護者や子供のみでなく職場の支援者として問題の視点として有効に使えると思う。
- ・実際に行なっている様子を見ながら研修であったため進め方についてはよく理解できた。
- ・行動だけに注目して考えを深めていくのは初めてだったのでとても新鮮で面白かった。

3-6 愛知県名古屋市

(1) 実施日時

セミナー : 10/9(木)

プログラム : 10/9(木), 10/23(木), 11/6(木), 11/20(木), 12/11(木), 12/18(木)

参加者 : 保護者 19 人, 支援者 8 人 (回によって増減あり)

(2) 保護者のアンケート結果 (調査用紙人数=9 名)

①平均年齢

保護者 : 39.00 歳 (SD=3.50, 範囲 34~47 歳)

プログラムで対象とした子ども : 6.32 歳 (SD=2.38, 範囲 3~11 歳)

②プログラムへの満足度

とても不満	0 人
不満	0 人
満足	1 人
とても満足	8 人

③お子さんへの関わり方について良かったこと・気づいたことはありますか？

・怒ることが減って、ほめることが増えた。イライラすることが減った。子どもの小さな努力を見つけることが上手になったと思う。

・子供の良い面にたくさん気づくことができ、ほめることでよい流れができたこと。また、子供自身に心や時間に余裕があるときは落ち着いて物事に取り組むことができ、行動にも違いがあるということに改めて気づいたこと。

・起こっていることだけでなく、環境や子供の気持ち、親の対応の仕方など多面的に考えることができるようになりそのことに気づくことができた。

・性格・気質でなく行動に注目するという具体的な提示はとてもわかりやすく子と関わる際に問題がよりシンプルに見られると思いました。どんな時、どんな状況で困るのか問題を冷静に観察することの大切さも分かりました。

・ほめる部分がとても多いことに気が付いた。ほめると子供も良い行動を少しずつするようになってきた。

④あなた自身について良かったこと・気づいたことはありますか？

・子供に対しての対応が上手になった。ストレスが減った。他のお母さんの話が聞けてよかった。

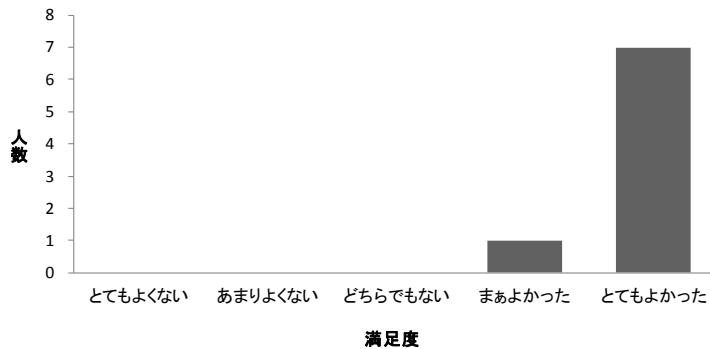
・自分の子育てに不安や不信があったが、私なりにまあまあ頑張っていることが他のお母さんたちのお話により気づくことができた。気持ちがラクになった。

・良かったことは他のお母さんの話が聞けたことです。困ったことをどう努力していることに格上げしていくかの方法はとても勉強になりました。と同時にこれからの生活の中でどんな困ったことが出てくるのかそのときどう対処したらいいのか不安も感じました。

・他の方の子育て法が聞けて良かった。見方を変えると子供が頑張っていることに気づけた。

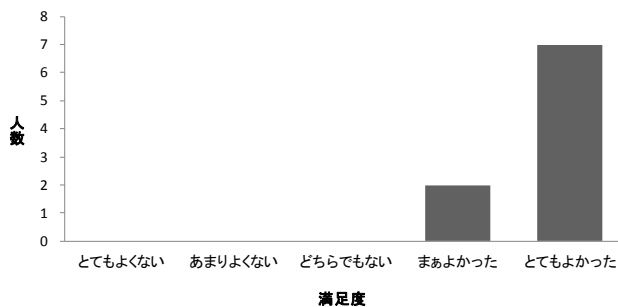
・ギリギリセーフとして行動を見られるようになったことまたそのおかげでイライラせずにいられることが増えたこと。自分が冷静に見直すことができる場を持って自分のイライラにブレーキをかけられるようになったこと。

⑤参加者同士でペアになって話し合ったり、発表したりしたことはいかがでしたか？



- ・私は話すことが苦手なので毎回緊張しましたが、他のお母さん方の意見はとても参考になった。
- ・私はお母さんたちの話を聞いてとても勉強になりましたが、実際に子育てが始まっていない私とペアになってしまったお母さんには申し訳なかったです。(お互いの体験を話し共有することが目的だったと思ったので)
- ・もっと時間が長くても良いほど、参加者同士の話し合いは充実していました。
- ・普段褒められることがないので嬉しかった。自分にはないとらえ方や考え方を知ることができとても参考になった。
- ・いろいろな方の意見を聞くことができると自分が思っているよりも出来ている事が沢山ある事に気付かされたり、他の方に工夫を勉強することができて、大変良かったです。

⑥ペアプロで取り上げる内容・テーマは、満足されるものでしたか？



- ・現状把握表の作り方、考え方、活用法を学べたことは、これからの自分に生かせると思う。もう少し子供の年齢が近い方どうしが集まれる機会があるといいと思う。父親に対する講座も作ってほしい。
- ・現状把握表の大切さはとてもよくわかりましたが、そこまで時間をかけるものかな？と思いました。ギリギリセーフの考え方も理解できましたが、通用しない場面ではどうしたらいいのか(学校など)疑問も残りました。
- ・頭の中で行動を見るということがわかっていても、ペアプロで学んでからようやくできるようになった。
- ・自分の知り合いにこの講座のことを話したら受けて！という方が大勢いました多くの方が参加できるよう機会が増えてほしいと思う。将来的に自分の子供が自分自身のこととして一緒にやったり夫婦で参加したり家族で参加したりできるものになるといいと思いました。
- ・参加させていただき大変勉強になりました。参加者の方のお話も勉強になったので、大変なのは1人じゃないと思うことができました。今後も今回参加されていた方とお話しできる場などがあると嬉しいと思います。

(3) 支援者のアンケート結果（調査用紙人数=4名）

① 支援者の平均年齢と平均支援年数

平均年齢 : 39.57 歳 (SD=11.75, 範囲 23~53 歳)

平均支援年数 : 6.00 年 (SD=6.03, 範囲 0~15 年)

② 支援者の所属機関と職種

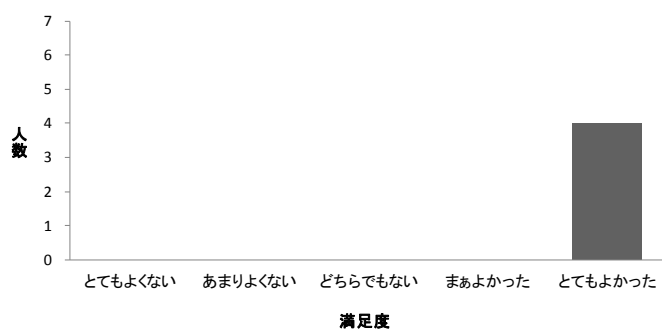
所属	中京大学大学院心理学科研究科	2
	保健センター	1
	京都文教大学学生相談室	1
	あま私立七宝比部保育園	1
	公立陶生病院	1
	インターナショナルスクール	1
	尾張旭市役所	1
職種	臨床心理士	2
	精神保健福祉士	1
	特別支援教育士	1
	言語聴覚士	1
	保育士	2
	臨床発達心理士	1



③ プログラムへの満足度

とても不満	0人
不満	0人
満足	1人
とても満足	3人

④ 内容・テーマは職員向け研修として満足できるものでしたか？



・毎回の開始前にその日のポイントを押さえておく時間があったのでわかりやすかった。終了後は個人的な理由(その後に仕事が入っていた)で情報共有の時間になかなか参加できなかったことは残念だった。行動で見えていくというテーマに取り組むことで、自分なりに本を読んで理解を深めるきっかけになったので良かった。

・職業柄どうしても、アドバイスをしてしまいたくなる自分でしたが、親御さんには、機会があれば、“自分で気づける”のだということがわかったことが、一番勉強になりました。

・3回目(同じカテゴリーを見つける)で、特に子どものカテゴリーの例にないような内容が多かったので、マニュアルのカテゴリーの例を増やして頂けるとお母さんたちが考えやすくなると思いました。

3-7 奈良県香芝市

(1) 実施日時

セミナー : 11/6(木)

プログラム : 11/6(木), 11/20(木), 12/4(木), 12/18(木), 1/8(木), 1/22(木)

参加者 : 保護者 13 人, 支援者 15 人 (回によって増減あり)

(2) 保護者のアンケート結果 (調査用紙人数=13 名)

①平均年齢

保護者 : 40.62 歳 (SD=7.46, 範囲 27~57 歳)

プログラムで対象とした子ども : 7.69 歳 (SD=3.66, 範囲 3~13 歳)

②プログラムへの満足度

とても不満	0 人
不満	0 人
満足	6 人
とても満足	6 人

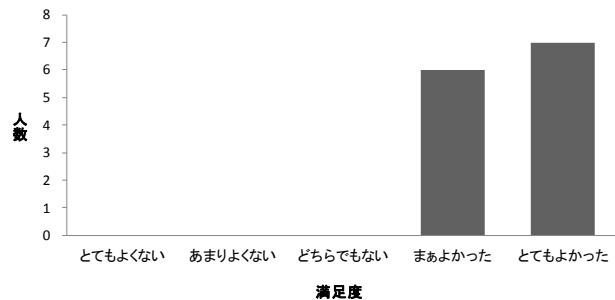
③お子さんへの関わり方について良かったこと・気づいたことはありますか？

- ・子供の良い面にたくさん気づくことができ、ほめることでよい流れができたこと。また、子供自身に心や時間に余裕があるときは落ち着いて物事に取り組むことができ、行動にも違いがあるということに改めて気づいたこと。
 - ・子供の行動を冷静に見ることができるようになった。・親側がほめたり、ありがとうねという回数が増えた。
 - ・自分の子どもは、困ることが多いと思っていたのですが、他のお母さんや、支援者の方と話してみて、私が子供のハードルを上げてしまっていたことに気がきました。又、少し見方考え方を変えるだけで、ほめるところがたくさん出てくるのが分かりました。子供の行動に注目し、どんどんほめて育てたいと思います。
 - ・子供が心身共に順調に成長していると感じることができました。子供のできていることをしっかり認識できたことで子供に優しく接することが増え叱ることが減りました。
 - ・子供より旦那に対して褒めることができるようになり、家の雰囲気良くなっていることが子どもに良い影響を及ぼしていると思います。子供の困った行動を目の前にして、ギリギリセーフ行動を探し出し、褒めることができた日もあり、参加して終わりではなく、継続していきたいと思いました。
-

④あなた自身について良かったこと・気づいたことはありますか？

- ・現状把握表を書くことによって自分のことも客観的に見ることができ、良い面だけではなく、困っている面もなにかしら自分で大差kじゅをとっていることがあるということが分かったことがとても良かったです。
 - ・他のお母さん達のお話、考えを聞けてとても勉強になった。
 - ・今まで自己肯定感が持てず、育児を含め、いろいろなことに自信を持てずにいました。でも、今回のペアプロで、他のお母さま方と話すことで、自分に少し自信が持てるようになり、少しずつ自己肯定感を持てるようになってきました。自分のことを認められるようになると、人にも優しく出来ることもよくわかりました。後あまり外へ出る勇気もなかったのですが、今回思い切って参加して、他の人と話すことも大事だと思いました。
 - ・自分が親として不完全だけれど、頑張っていると感じる事ができた。悩みや困っていることの根底を考える機会となり色々な考えにとらわれている自分に気づくことができました。
 - ・ペアプロに参加する前は自分はダメなところが多く、仕事を子育てより重視している後ろめたさもあって、自己肯定感が下がっていたように思います。私は頑張っていてそれを家族や職場で認めてもらいたがっているんだと気づかされました。
-

⑤参加者同士でペアになって話し合ったり、発表したりしたことはいかがでしたか？



・自分だけではわからない視点や意見に出会うことができ、たくさん発見がありました。また、自分の子供より上の年齢の方の意見を聞くことにより、数年後にはまた違った子育ての悩みが楽しみが出てくるのだということがわかったのは私自身にとって大きなことでした。

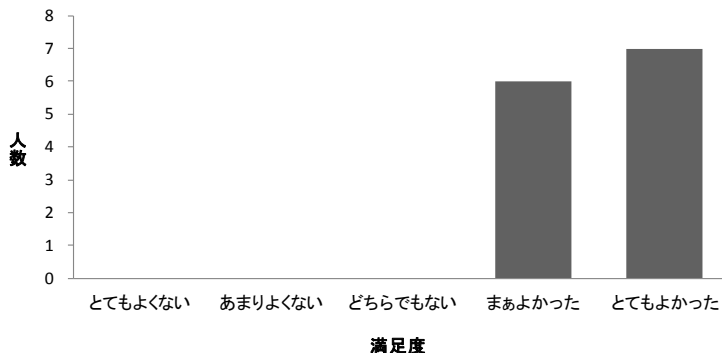
・相手の方のお子様の状況を理解するだけで、時間がかかってしまう場面があったが、色々な方と意見交換ができ勉強になりました。

・毎回ペアが変わることで、同じような悩みを抱えていても、人によって考え方受け止め方が様々なのだなと思いました。色々なお話がきけて良かったのと、後発表で自分の事をほめてもらえると嬉しく、ほめられる側の気持ちもわかり良かったです。ただ強いて言えば、話し合いの時間がもう少しあれば良かったと思います。

・子育てについて同じように悩み苦勞を感じている物同士共感もでき、客観的に冷静に自分を見つめなおす機会ももてました。

・毎回ペアを変えていただき、気づきをいただけた方、全く参考にならなかった方いろいろでした。支援者の方も同じで当たり外れがあるけれど、ペアになって話し合うのは良かったと思います。全員の話を聞いていたら、あんなに掘り下げて話し合えなかったと思うので。

⑥ペアプロで取り上げる内容・テーマは、満足されるものでしたか？



・子供のことだけでなく、今回、自分のことについても考える機会となったことが良かったです。

・ペアレントプログラムでの習得すべき内容、主旨はよく理解できました。できればその先のトレーニングを受けてみたいと感じました。

・ほめて育てると良いことはわかっていても、ほめ方がわからず、困っていました。行動を気にしながらほめることで、望ましい行動が増えていくことが、実際にわかり、とてもほめやすくなりました。ほめることが増えると大変だと思っていた育児も少し楽しくなってきました。今の私に必要な内容でありがたかったです。

・自分が優しくなければ人を褒めることができないと教わり、母(自信)の自己肯定感をまず高めていただいたプログラム内容に正直驚きました。

・今の現状(自分の気持ち、子どもの行動力)を整理できたで良かったです。

(3) 支援者のアンケート結果（調査用紙人数=11名）

① 支援者の平均年齢と平均支援年数

平均年齢 : 41.80 歳 (SD=9.99, 範囲 24~58 歳)

平均支援年数 : 7.70 年 (SD=8.61, 範囲 0~30 年)

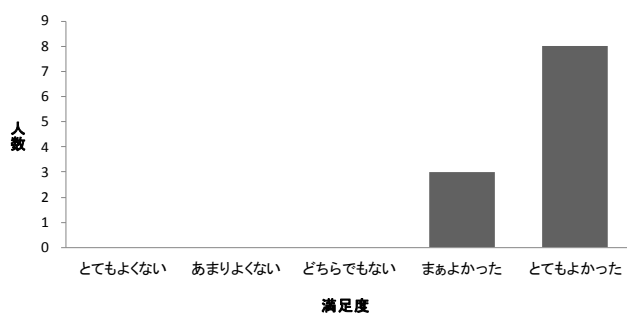
② 支援者の所属機関と職種

所属機関	こども支援センターもちつもたれつ	1
	教育委員会	1
	保育所	3
	大和高田市役所社会福祉課	1
	障がい者の保護者	1
	関西福祉科大学	1
	市役所	4
	保健センター	2
	奈良県発達障害支援センター	1
	その他	2
職種	保育士	6
	臨床心理士	2
	大学職員	1
	保健師	3
	相談員	1

③ プログラムへの満足度

とても不満	0人
不満	0人
満足	2人
とても満足	8人

④ 内容・テーマは職員向け研修として満足できるものでしたか？



・保護者の心の変化や整理されていく様子がよくわかる内容でした。支援の仕方でも支援者側としてご本人に気づいてもらうように声掛けをする方法を自分自身更に学んでいく必要があると思います。

・自分で作成すればいいのですが研修参加者のみが見えるPDFの資料があれば仕事にも使いやすいと思います。

・実際にプログラム作成に間近で見ながらポイントが更に確認できた具体的にポイントを理解することで解決方法が見えてくることを再確認できた。

・ペアを組むことの意味、自分を発見できる、見方をいろんな角度で見れるという職員の研修として頭がやわらかくなりよかった。

・内容を理解し支援者としての気づきを促す声掛けができるかどうかという不安があります。進行等を行うには主体的役割を担うための研修がほしいと感じました。

3-8 和歌山県岩出市

(1) 実施日時

セミナー : 12/11(木)

プログラム : 12/11(木), 12/25(木), 1/15(木), 1/29(木), 2/12(木), 2/26(木)

参加者 : 保護者 8 人, 支援者 12 人 (回によって増減あり)

(2) 保護者のアンケート結果 (調査用紙人数=7 名)

①平均年齢

保護者 : 37.63 歳 (SD=3.96, 範囲 31~44 歳)

プログラムで対象とした子ども : 5.50 歳 (SD=3.42, 範囲 2~10 歳)

②プログラムへの満足度

とても不満	0 人
不満	0 人
満足	3 人
とても満足	3 人

③お子さんへの関わり方について良かったこと・気づいたことはありますか？

・これまでではできて当たり前と思ひあえて触れることはなかった事も褒められるようになった。また、ぎりぎりセーフと自分に言い聞かせ、乗り切れる時が増えた。その反面今回は、ギリギリセーフにしたけれど、この事が、今後子どもを困らせることに繋がりはしないだろうかと不安になる時もある。

・褒めることが多くなった。子どもがした行動に目を向けて、褒められるようになった。

・やはり褒める事良い行動がでやすくなったように思います。認めてはいましたが、きちんと褒めてやるのが大事だと思ひました。

・日頃課題点など一般的にマイナスと捉えられる面をどうすればプラスに変えていけるかばかり考えていたが、整理をしていくことで無駄にどうしよう？と心配する気持ちが少し減った。

・60、70%できていたら、良いところ。ギリギリセーフ行動で、今まで子どもの欠点ばかり多く感じていたのが逆に減り、気持ちが楽になりました。

④あなた自身について良かったこと・気づいたことはありますか？

・子どもへの接し方を客観的に見ることができた。知らない人の子ども(他人の子ども)なら許せることでも、自分の子どもだとどうしても厳しくしてしまっていると実感した。

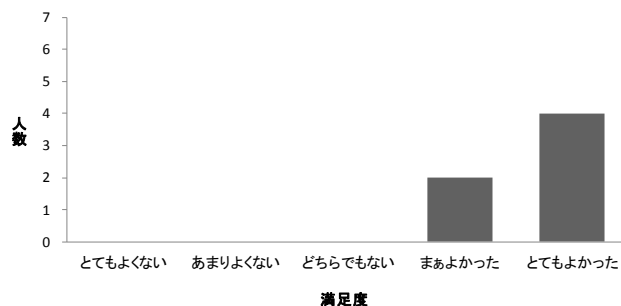
・漠然と子育ては大変だと思っていたが、そうでもないかもしれないと、少し気持ちが楽になりました。

・私自身の気持ちが楽になりました。出来ない事(困っていること)より良いところを見る事で子どもの頑張りも見えてきました。

・同じ難しい子育てに直面しているステージに立ってるお母様方と出会い、意見交換する場をもてて良かった。人数的にも丁度良かった。人数が多くて逆にしんどくなる。

・今までは、褒めると言えば「すごい！」という感じで何を？という具体性に欠けていたので「行動で」というほめ方を知れて良かったです。

⑤参加者同士でペアになって話し合ったり、発表したりしたことはいかがでしたか？



・ペアという少人数であるからこそ、子どもの現状など伝えやすかった。また、それらをお互いが知った上で、話し合えたので、より深く話し合うことができた。

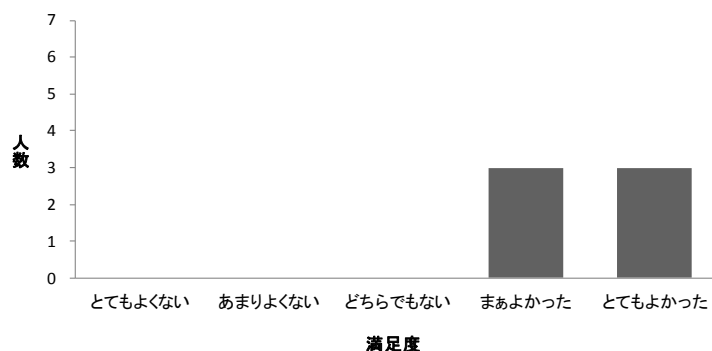
・話し合うことで共感できたり、発見できたりして、意見や考えを深めることができた。

・ほかのお母さんの意見やお話はすごく為になりました。自分の考え方も広がった気がします。

・自分では思いつかない事を気づいてもらえたりという新しい発見が色々あってよかったです。

・普段は話せない子どもの話ができたり、聞けたり相談したりと、楽しいし、とてもためになりました。

⑥ペアプロで取り上げる内容・テーマは、満足されるものでしたか？



・プログラムに沿って、自分や子供を分析することで、良い所を予想以上に見つけることが出来た。普段気づかないことにも、話し合いで気付けてとても良い機会になりました。今後も学んだことを生かして、褒めることを増やし、子育てしていきたいと思います。

・「ギリギリセーフ行動」は、親にとっても子供にとっても気が楽になるという考えだったので、教えてもらって本当に良かったです。

・とても良かったのですが、やっぱり親もストレスがたまるので、親のプログラムもしてもらえたら嬉しいです。

(3) 支援者のアンケート結果（調査用紙人数=11名）

① 支援者の平均年齢と平均支援年数

平均年齢 : 41.67 歳 (SD=11.31, 範囲 28~62 歳)

平均支援年数 : 12.00 年 (SD=11.64, 範囲 3~37 年)

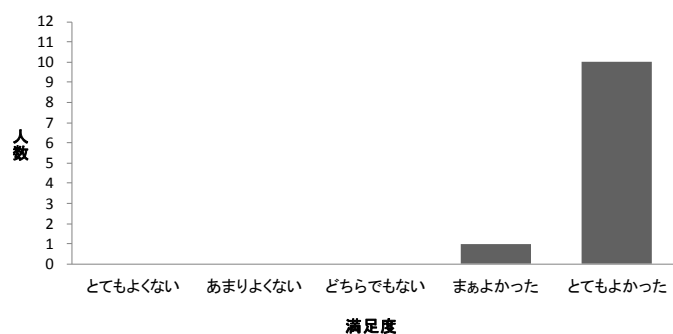
② 支援者の所属機関と職種

所属	紀の川市教育委員会	1
	和歌山つくし医療福祉センター	6
	南紀医療福祉センター	2
	和歌山乳児院	1
	紀の川市役所	1
	多機能型福祉事業所つくしの里	1
職種	医師	1
	臨床心理士	5
	看護師	2
	保健師	1
	保育士	1
	作業療法士	1

③ プログラムへの満足度

とても不満	0人
不満	0人
満足	4人
とても満足	7人

④ 内容・テーマは職員向け研修として満足できるものでしたか？



- ・最初から受けていなかったのが正直何がなんだかわからなかった。外来でお母さんたちの何人かのお話はきいたりしていたので、思いは理解できた。
- ・今回はサポート側だったので一度自分がペアプロの勉強をしっかりとしてから望んだほうがより具体的に指導ができたのではないかと感じた。
- ・研修に参加させていただいてお母さんたちの本当の悩みが聞けた気がして勉強になりました。
- ・ご家庭の様子が具体的にわかる内容でよかったです。
- ・現状把握表の見直しでペアワークをしているとき、どのように助言すればいいかとまどうことが多かった。しかし、講師やそのほかスタッフの関わり方を見て学ぶことが多くあり、勉強になりました。

3-9 岡山県岡山市

(1) 実施日時

セミナー : 12/7(日)

プログラム : 12/7(日), 12/21(日), 1/11(日), 1/25(日), 2/15(日), 2/22(日)

参加者 : 保護者 12, 支援者 13 人 (回によって増減あり)

(2) 保護者のアンケート結果 (調査用紙人数=6名)

①平均年齢

保護者 : 40.36 歳 (SD=7.05, 範囲 28~48 歳)

プログラムで対象とした子ども : 6.67 歳 (SD=3.34, 範囲 2~14 歳)

②プログラムへの満足度

とても不満	0 人
不満	0 人
満足	1 人
とても満足	5 人

③お子さんへの関わり方について良かったこと・気づいたことはありますか？

・いつもこうでなくてはいけないと自分の中で決めてそれを出来ないことで勝手にイライラしていたことが多かったと思います。自分自身の考え方を柔軟にしたことで子供への声かけや態度が和やかになりイライラすることも減りました。結果、子供との関係が良くなったと思います。

・子供の尊厳を大切にすること私の視点を押し付けないこと始めはとにかく認めてそして間違っていることを教える。見通しのきくような関わり言葉で説明すること、どのパターンアセスメントの時に困っているかを把握する。本当のだめを教えてぎりぎりのだめは子供が納得できるよう関わるのが大切なのかと気づいた私自身困ってる困ってると思っているところもあるかなと実は子供自身は困っていないのでは本人が困ってこそ発達障害なのかと私の目線ではなく子供目線でしっかり向き合う時は向き合うメリハリをつけて私が楽しく過ごせば子供も楽しく入れるのだと思いました。子供の関わり方を知って本当に娘のことがいとおしくなりました。

・子供は子供なりに頑張っていることに気付いた。全然できていないのではなくできているところがあったし子供とのコミュニケーションやかかわりを以前よりも大切に考えるようになった。

・何か困難にぶつかった時、これまでも子どもの目線にたって、色々な改善法や工夫を探してきたので、今までの自分は間違っていなかったんだと思い安心しました。これからもそうしていきたいのと同時に、子どもに困り感をダイレクトに聞いてみて、一緒にできそうな方法を考えていけたらと思います。

・困る行動には理由があると考えられるようになり、やたらに怒らなくなりました。

④あなた自身について良かったこと・気づいたことはありますか？

・子供への考え方がポジティブになりました。子供に対して優しい見方ができるようになりました。子供のことを落ち着いて観察できるようになりました。

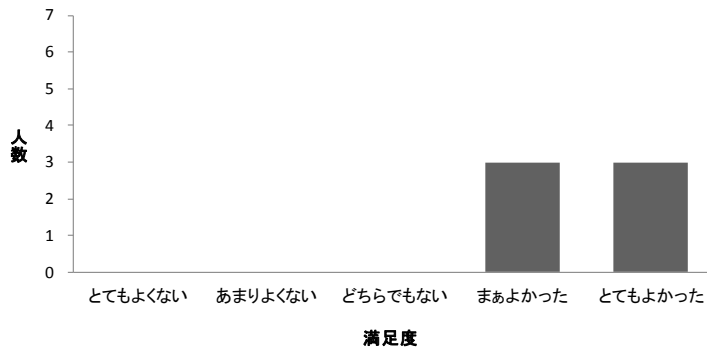
・ストレスからイライラ感の解消方法を知ることが出来ました。子供に対してイライラするそのイライラを子供にあたってしまうから子供もイライラするその繰り返しであることなのに子供に直視しすぎてちょっと引いたりしてみてギリギリセーフの気持ちの持ち方=あきらめるそのことで自分を追い詰めない=子供に追い詰めない結果私のしかり度が減ったことで子供も落ち着いて向き合えたり出来て私が一番成長できたのかと思います。何事にも楽しくして行こうと思うこと、子供とのかわり方が変わったことで自分がかわれたようです。困ったときには1人で考えず誰かに相談して気持ちを楽にすくこと。

・おおらかに子供を見られるようになった

・ペアの人と話したときに、ペアの人に「気が楽になった」と言ってもらった。自分と話すことで安心感を持ってもらえたことが大変嬉しかったです。

・先輩のお母さんの話を伺って少し楽観的に考えられるようになりました。

⑤参加者同士でペアになって話し合ったり、発表したりしたことはいかがでしたか？



・ほかの方と話すことで情報の共有が出来、良かったです。ただまとめ役の方がいる場合は良かったです。いないと話が進まないでみんな黙っているといった場面もあったかなあと感じました。

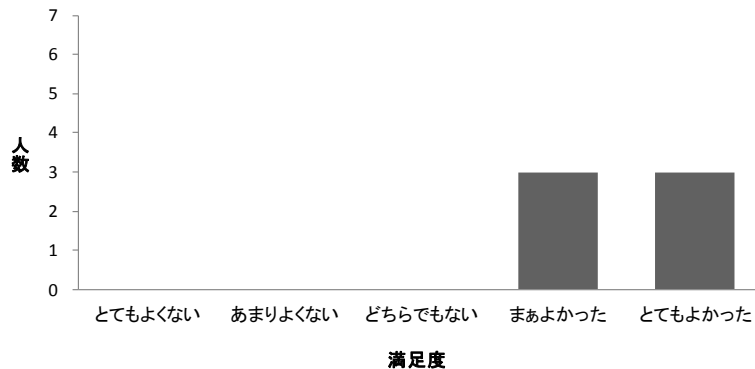
・時間がなかなかかかったため盛り上がった時に終了ということがよくありました。文章にすれば単純なようですがその方その方の思いがその言葉にあるので当事者家族同志として少し話ができると時間があつたらいいなと思いました。でも自分の視点とは違うものをお聞きすることができてなるほどと思うこともいっぱいありました。

・ほかの人の考え方子供への接し方を聞いて共感することが多かったです。

・自分より年上の子どもさんを持つお母さんの話ができ、今後出てくるだろう課題や問題に見通しができた。また反対に年下の子どもさんをもつお母さんとの話は、自分もこんな風に悩んだり考えたりしていたなと共感できた。

・うまく話が進む時とすぐ終わってしまう時がありました。

⑥ペアプロで取り上げる内容・テーマは、満足されるものでしたか？



・内容はわかりやすかったと思いますが時々先生の出された課題の受け取り方がグループワークの際にほかの方と違う場合があったので、例題をプリントなどで示して頂ければより分かりやすかったのではと思います。大変お世話になりました。ありがとうございました。

・はじめ何もつかめないまま3回目ぐらいまで過ごしとにかく宿題に追われる感じでしたが4回目位からなんとなくプログラムの内容、課題の意味が分かってきた気がします。文章にすることの難しさでしたがカテゴリーわけパターンわけアセスメントわけすることで目で見ることができてどこでどう困っているのか困っているためにはどう努力してどう解決できたかという道筋で子供にとっても自分自身がよく見えた気がします。

・見方を変えるきっかけになったのでよかったです。

・改めて、自分や子供の全体像に向き合えることができて良かったです。「いいところ、できること」が分かっていないと、改善法や工夫点は見いだせない!!!昔上司に「できないではなくできることに目を向けなさい」と言われたことがあります。そのことがよくわかりました。

・行動を見ることというのは、普段やっているようでやっていなかったのが良かったです。

(3) 支援者のアンケート結果 (調査用紙人数=13名)

① 支援者の平均年齢と平均支援年数

平均年齢 : 43.62 歳 (SD=10.77, 範囲~歳)

平均支援年数 : 6.91 年 (SD=6.41, 範囲 2~25 年)

② 支援者の所属機関と職種

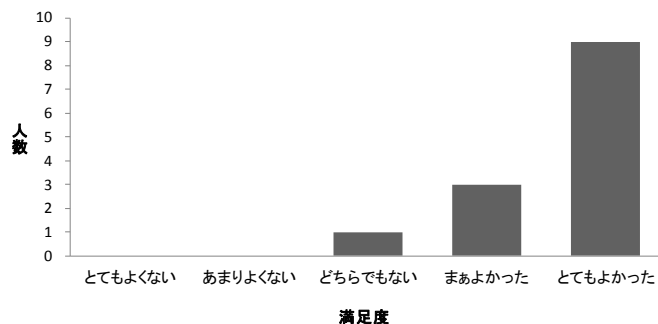
旭川荘療育・医療センター	1	臨床心理士	2
岡山市発達障害者支援センター	1	ペアレントメンター	2
古都グレースクラブ(学童)	1	児童指導員	1
岡山自閉症協会	1	産業カウンセラー	1
NPO法人ていーたいむ(当事者の会)	1	支援員	2
ぐるぐるめろん島	1	言語聴覚士	1
岡山市役所福祉ジョブ・サポートスペース岡山	1	教諭	1
国立大学法人岡山大学	1	保育士	3
旭川荘療育医療センター	1		
倉敷成人病センター	1		
岡山県立岡山東支援学校	1		
特定非営利活動法人Kirara	2		



③ プログラムへの満足度

とても不満	0 人
不満	1 人
満足	3 人
とても満足	8 人

④ 内容・テーマは職員向け研修として満足できるものでしたか？



・参加者(保護者)の変化が見てとれて、とても勉強になりました。進行の仕方や保護者自身が気づきやすい工夫がされており、参考にさせていただきたいです。駐車場の利用がしやすければありがたかったです。

・通常の相談業務やセンターでの事業の中で、保護者の方への伝え方考え方などをどのようにすると理解してもらいやすいのかを客観的に見ることができ、参考になりました。

・保護者に配られた宿題の用紙やそこに書かれていた事 回を重ねるごとの変化などわかる資料があれば尚良い

・支援者で参加したものの、保護者の立場の自分がいて、脳が行ったり来たりを繰り返し、混乱するときもありましたが、ちょっと保護者寄りになると気持ちの方が分かりやすいと感じました。

・保護者の話を聴く際に自分自身が整理して聴くことができる。ポイントを押えて聞けるようになる。

3-10 徳島県徳島市

(1) 実施日時

セミナー : 9/30(火)

プログラム : 10/7(火), 10/21(火), 11/4(火), 11/11(火), 11/25(火), 12/9(火)

参加者 : 保護者 10 人, 支援者 5 人 (回によって増減あり)

(2) 保護者のアンケート結果 (調査用紙人数=4 名)

①平均年齢

保護者 : 38.30 歳 (SD=4.52, 範囲 33~46 歳)

プログラムで対象とした子ども : 6.40 歳 (SD=3.17, 範囲 1~11 歳)

②プログラムへの満足度

とても不満	0 人
不満	0 人
満足	2 人
とても満足	1 人

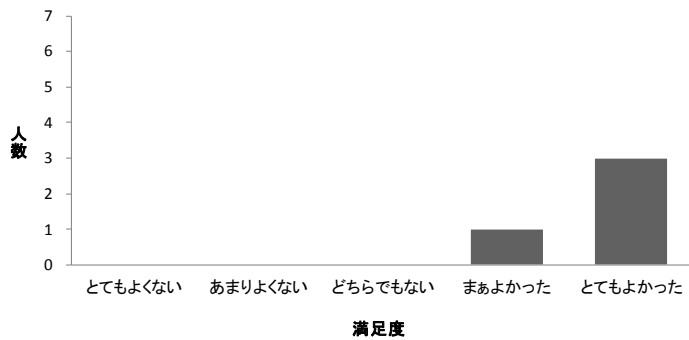
③お子さんへの関わり方について良かったこと・気づいたことはありますか？

-
- ・子供への声掛けが上手くなった。(こういったらこうなるから、こっちの方がいいかなと考えられるように)
 - ・間をおいて客観的に見る事ができるようになった。以前より、褒めようと意識するようになった。ギリギリセーフの考えで発想の転換ができるようになった。
 - ・とにかくほめて伸ばす。子どもに出来ていないと怒ることも意外とハードルを下げたり年合を考慮すると出来ていることが多かったり仕方ないと思えるようになりました。
 - ・褒めてくるという宿題があったのでほめポイントを積極的にみつけられて、子どもに伝えることが増えて良かったと思う。
-

④あなた自身について良かったこと・気づいたことはありますか？

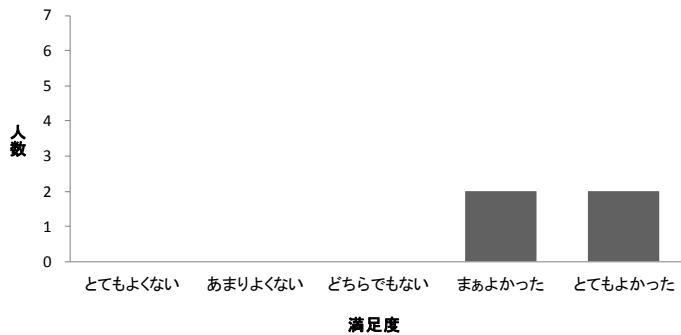
-
- ・子供に求めるハードルが低くなった。
 - ・夫に対して、きつく言われると嫌になっていたが、夫の観察をすることによって、夫は私だけでなく、自分が失敗した時にも、自分に対して暴言を吐いていることがわかり、私にだけ言っているのではない事が理解できた。観察する力が付いたと思う。
 - ・アメとムチの使い方が子育ての中でわからずつついつい怒ることが多くなり、自分でも嫌になっていたのですが、今回のプログラムを通してそんなに怒らなくても物事が解決できることを知りました。
 - ・叱ってばかりでは状況はよくなないと気づけた。平均や他の子どもと比較するのではなく、本人の成長をみてあげようという気持ちになれた。
-

⑤参加者同士でペアになって話し合ったり、発表したりしたことはいかがでしたか？



-
- ・同じような悩みを共有している方がいると分かり、励みになった。
 - ・いろいろな人の感じ方、考え方にふれることが出来良かったです。
 - ・子育てに悩んでいる方がほとんどだったので共感が持てました。
 - ・同じ悩みを持つ参加者の方と仲良くなれてよかったです。
-

⑥ペアプロで取り上げる内容・テーマは、満足されるものでしたか？



-
- ・1～6回のステップが小さかったのすごくわかりやすかった。
 - ・プログラムと知らずに参加しました。以前からこういう形式に疑問をもって、変化がみられないのではと思っていましたが、変化が見えることにより、新たな発見と喜びになりました。行動、実践あるのみですね。宿題の大事さにも気づかれました。
 - ・ぜひ、ペアレントトレーニングも受けて、子育てにいかしたいと思います。
 - ・先生の説明はとても分かりやすく、スタッフのみなさんの対応も親切でとても良かったです。
-



(3) 支援者のアンケート結果 (調査用紙人数=3名)

① 支援者の平均年齢と平均支援年数

平均年齢 : 42.40 歳 (SD=7.30, 範囲 33~51 歳)

平均支援年数 : 4.60 年 (SD=5.86, 範囲 1~15 年)

② 支援者の所属機関と職種

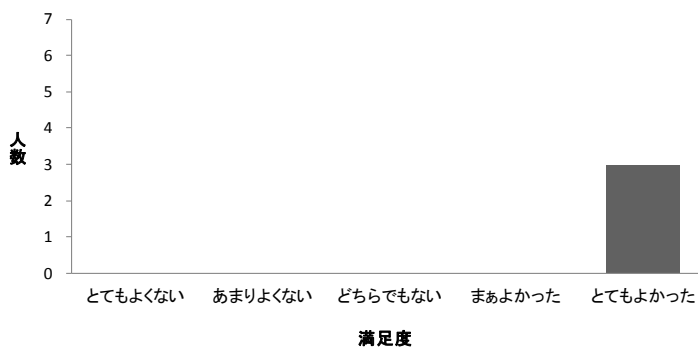
	社会福祉法人カリヨン	1
所属	徳島県発達障がい者総合支援センター	2
	オーティの会	2
職種	保育士	2



③ プログラムへの満足度

とても不満	0 人
不満	0 人
満足	0 人
とても満足	3 人

④ 内容・テーマは職員向け研修として満足できるものでしたか？



・現場に参加しながらの研修により、ニーズ把握につながった。

・入門編ということで、ペアプロそのものがどういうものかを知る機会となり、とても役立つと感じた。一回のみでなく、継続的な学びがその間に身につけることができるのでよかった。業務の調整が難しかったが、全て参加できてよかった。

3-11 島根県益田市

(1) 実施日時

セミナー : 9/30(火)

プログラム : 10/14(火), 10/28(火), 11/11(火), 11/18(火), 12/2(火), 12/9(火)

参加者 : 保護者 8 人, 支援者 8 人 (回によって増減あり)

(2) 保護者のアンケート結果 (調査用紙人数=6 名)

①平均年齢

保護者 : 35.88 歳 (SD=7.77, 範囲 23~48 歳)

プログラムで対象とした子ども : 4.63 歳 (SD=1.77, 範囲 3~8 歳)

②プログラムへの満足度

とても不満	0 人
不満	0 人
満足	3 人
とても満足	3 人

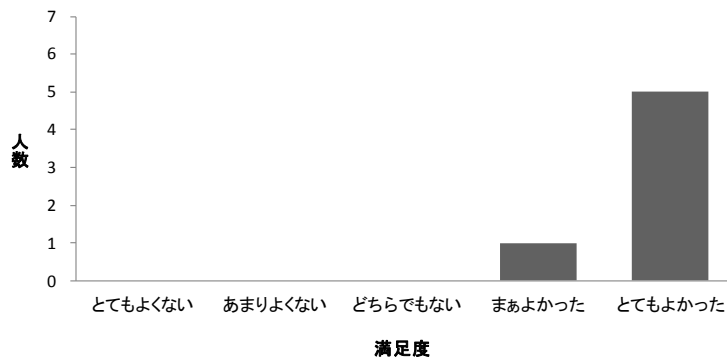
③お子さんへの関わり方について良かったこと・気づいたことはありますか？

- ・意識的に子どもの行動に対して「できたね」「大丈夫」など肯定的な言葉をかけることが増えた。
 - ・子どもの成長、努力していることに気づくことができました。褒めることの大切さを教えてもらいました。
 - ・良い行動が具体的に書けた。
 - ・子どもの行動の困っている所の発想で転換し、努力するところを見つけ、褒めることができるようになった。
 - ・まず、私が叱ってばかりで褒めることが少ないという事に気づき、とても反省してしまいました。良い所を見つけ、そこが伸びるよう手助けしてあげることはとても大切だとわかり、早速、実践し始めました。
-

④あなた自身について良かったこと・気づいたことはありますか？

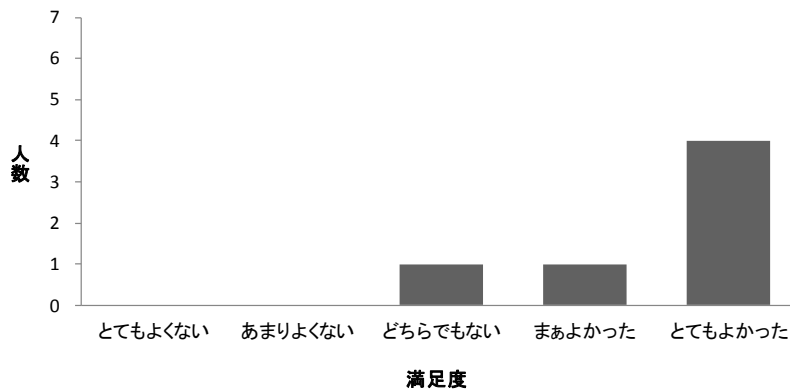
- ・自分自身のことを振り返るきっかけになったり、参加されている人のお話を聞いて客観的になれた。
 - ・毎週火曜日が楽しみでした。来週からなくなってしまい少しさみしいです。
 - ・参加者さんたちの話が聞けて良かった。
 - ・自分について客観的にみる事ができた
 - ・最初恥ずかしながら、自分の良い所がなかなか見つけることが出来なく苦労しました。でも、困っている所が努力していることに移行し、努力していることが、良い所に移行していく作業を通して、考え方一つで行動が変わるという事が発見できました。
-

⑤参加者同士でペアになって話し合ったり，発表したりしたことはいかがでしたか？



-
- ・私と年齢差があり、会話が難しかった
 - ・同じ思いをしている方がいて、共感できることがあって良かった。色々な人の考えが聞けて良かった。
 - ・毎回違う方とペアになって最初は戸惑いましたが、結果いろんな方と話す機会を持って良かったです。発表することにより少しずつ自信が持てました。
 - ・一人じゃないことが実感できたかなと思います。あと、人に認めてもらえるのが嬉しいです。
-

⑥ペアプロで取り上げる内容・テーマは，満足されるものでしたか？



-
- ・当たり前のことができていることの大切さなど，ポジティブになれるように考えられるのはとても良かったです。
 - ・他の子達(兄弟)との関わりが表現できなかった。
 - ・“ギリギリセーフ行動”というフレーズが“完全に出来ないダメだ”という固定観念から縛られなくなり、気持ちが楽になり、“まあぼちぼちやろうか”とゆったりとした気持ちになり、ストレスが減ったように感じました。
 - ・6回…この先何をしていくんだろう？というのがわからず、最初に少し見通しがもてるとよかったかと思ったのですが、これも意図的なプログラムの流れですか？
-

(3) 支援者のアンケート結果（調査用紙人数＝8名）

① 支援者の平均年齢と平均支援年数

平均年齢 : 39.75 歳 (SD=9.51, 範囲 30～54 歳)

平均支援年数 : 8.40 年 (SD=5.85, 範囲 0～16 年)

② 支援者の所属機関と職種

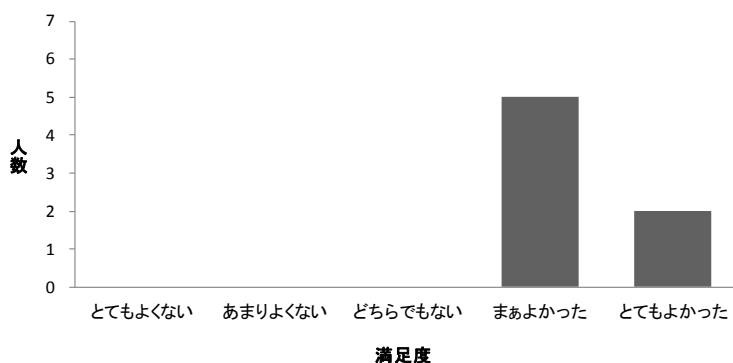
発達障害者支援センターウインド	1
益田市役所	4
所属 吉田南地区放課後児童対策運営委員会学童どんぐりクラブ	1
放課後デイサービス タッチ	1
社会福祉法人EGFぶらっと	1
保健師	1
職種 保育士	4
社会福祉士 SENS	1



③ プログラムへの満足度

とても不満	0人
不満	0人
満足	3人
とても満足	4人

④ 内容・テーマは職員向け研修として満足できるものでしたか？



・完璧でないと「こちらの思う基準まで達していないと褒めにくい」という状況から行動で見ることができる努力をしているところを褒めることでお母さん自信も楽になる様子を感じられました。

・子供の見立てに利用できる

・1-2回目が難しく、入りにくかった。(普段動詞「～する」という考え方をしていないからだと思う)勉強不足でした。

・各プログラム終了後、支援者それぞれの感想を基に、次回各保護者に対しての働きかけ方等、共通理解も含めて、話し合っておいた方が良かったように感じました。次回に向けて、各保護者の方にアドバイス等出来るよう各保護者の現状把握表をコピーして頂いて、記入された内容を確認出来れば「行動で書く」というところでの具体的な表現のアドバイスもスムーズに出来たのではないかと思います。支援者の人数が多く保護者の方は、やりずらさ(圧迫感)はなかったのか心配でした。

・保護者の気持ちに変化をみる事が出来参考になった点が多かった。また保護者の関わりの方の変化で子供たちの行動も変わってくることも再確認できた。(ただ支援者としての関わり方には戸惑いも多く参加者の方に申し訳ない気持ちも多かった)

3-12 山口県長門市

(1) 実施日時

セミナー : 11/22(土)

プログラム : 12/7(日), 12/20(土), 1/10(土), 1/17(土), 1/31(土), 2/21(土)

参加者 : 保護者 15 人, 支援者 23 人 (回によって増減あり)

(2) 保護者のアンケート結果 (調査用紙人数=11 名)

①平均年齢

保護者 : 36.73 歳 (SD=6.18, 範囲 27~51 歳)

プログラムで対象とした子ども : 8.00 歳 (SD=2.90, 範囲 3~13 歳)

②プログラムへの満足度

とても不満	0 人
不満	0 人
満足	5 人
とても満足	5 人

③お子さんへの関わり方について良かったこと・気づいたことはありますか？

・問題があると感じる行動でもその中でまだ出来ていることがあったり、我慢している部分があって、それに気づくことができた。

子供の困った行動を目にしたとき以前は注意するばかりでしたが、ペアプロに参加してぎりぎりセーフのことを知り一息ついて子供と接することができるようになったのでよかったです。

・「ほめる」という事はすばらしいなと思いました。子供に自信を付けさせていけるように褒める事を心がけようと思いません。

・ほめることが多くなった。

・「行動を具体的に褒める」という考え方が新鮮でした。宿題の「ほめる」も、回を重ねて楽しくなり、子どもの良い所が見つけやすくなりました。褒められて時の子供の表情や態度を見ていると、こちらも嬉しくなり、子供に対しての愛しさが増したように思います。怒る回数も減りました。

④あなた自身について良かったこと・気づいたことはありますか？

・子供を肯定的にとらえて、ほめることができるようになり、その結果、子供の笑顔をよく見ることができたので、私自身が嬉しかった。

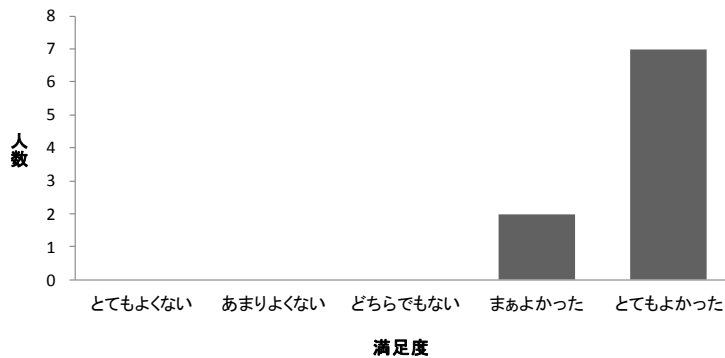
・ほめることで子供の表情が明るくなったり会話が楽しくなったりして私も明るい気持ちになるのでほめることは改めて大切だと思いました。

・改めて、現状把握表などでみてみると“本当に困っている事は少ないんだ”と思いました。ギリギリセーフをたくさん見つけて、悪い方ばかりに目を向けないようにしたいと思いました。

・あまりイライラしなくなった。怒らなくなった。

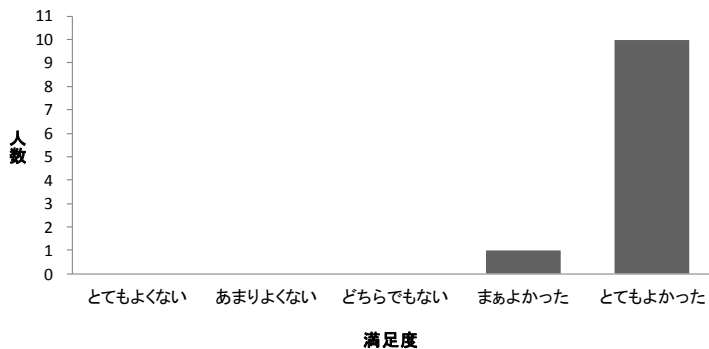
・以前から「ほめる」「スモールステップでいこう」と思っていたつもりでしたが、今回の講座を受けて、どう褒めたらいいのか、スモールステップのつもりが、まだまだスモールではなかったことに気づけました。子供に対しても、「ほめポイント・ギリギリセーフ」を見つけることで、イライラしたり、怒ることが減ったと思います。

⑤参加者同士でペアになって話し合ったり、発表したりしたことはいかがでしたか？



- ・ほかの人の考え方やほめポイント等、参考になることが多く自分の考えの幅が広がったのでよかったです。
- ・聞くだけという形だけの勉強会が多い中で、ペアで話し合ったり、発表したりするのはとても緊張しましたが、ほかのお母さん達と話しやすくなって良かったです。発表することにも少しずつ慣れる事ができました
- ・色々な人と話ができよかった。
- ・毎回違う方とペアを組むことによって、子どもの行動の良いところを見つけられました。また、ペアの方の話を聞いて「うちの子もここはできている!!!」とか「このやり方を取り入れてみよう」と思う等、一人で考えるよりも新しい発見があり、とても有意義だったと思います。
- ・人の捉え方はそれぞれ、感じ方もそれぞれ、子供も同じこと！自分の思いを押し付けるのではなく、いい意味で流されるというのも大事なと感じるペアとの話し合いです。

⑥ペアプロで取り上げる内容・テーマは、満足されるものでしたか？



- ・最終回を子どもの入院で参加できなかったのがとても心残りです。。6回は長いように感じましたが終わってみるとあっという間でした。この内容はこのぐらいの回数を経て理解できるのだと実感しました。ありがとうございました。
- ・「目からウロコが落ちる」プログラムだったと思います。最初は「どうなるんだろう？」と思っていましたが、回を重ねるごとに「なるほど!!」と思いました。受講できて本当に良かったと思います。
- ・具体的に掘り下げていくと出来ない事ばかりじゃなくて、この部分は出来てくると思えてくるし、結局のところ、何とかなるかなと前向きに考えることができるようになったと思います。
- ・自分と子供と、キチンと向き合えたことがとても良かったです。気づくことが沢山ありました。
- ・受講する前は、どんな講座なのか不安でしたが、参加して本当に良かったです。また次回も参加したいです。
- ・”行動で見る”事が最初とても難しかった。

(3) 支援者のアンケート結果（調査用紙人数=17名）

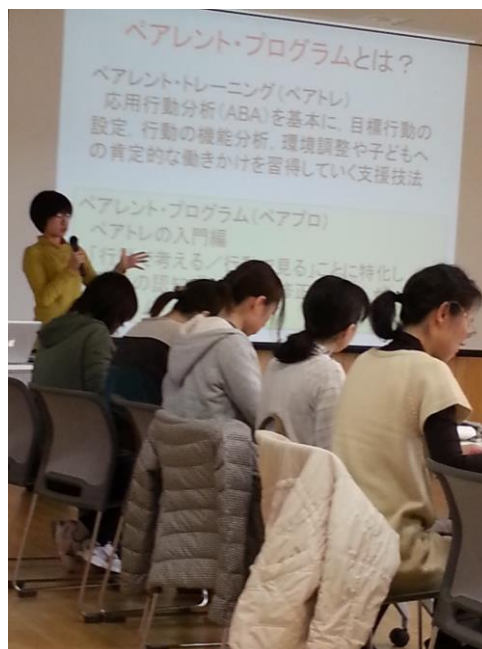
① 支援者の平均年齢と平均支援年数

平均年齢 : 46.56 歳 (SD=12.23, 範囲 23~59 歳)

平均支援年数 : 8.88 年 (SD=7.12, 範囲 0~21 年)

② 支援者の所属機関と職種

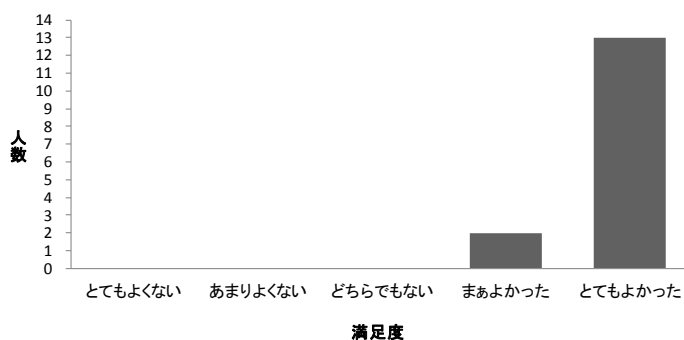
所属	長門市児童デイケアセンターのぞみ園	1
	保育園	9
	幼稚園	2
	小学校	1
	NPO法人きらり	3
	長門市役所	2
	かねはら小児科	1
	下関市こども発達センター	1
	保育士	14
職種	保健師	4
	臨床心理士	2



③ プログラムへの満足度

とても不満	1 人
不満	0 人
満足	2 人
とても満足	11 人

④ 内容・テーマは職員向け研修として満足できるものでしたか？



・継続的な支援者の養成が必要と感じる。(支援者を1人でも増やすため)スキルアップ研修等、スーパーバイザーから助言を得られる機会があると、自信を持ちながら実施しやすくなると感じる。

・今から保護者支援にあたられる人に是非とも受けて欲しい。保護者自身からの意欲が見え、自信につながっていた経過を実際に見れて感動した。

・とてもわかりやすく段階を踏むごとにポイントが明確になった。

・褒め言葉ギリギリセーフの大切さ。そのためには子どもの行動をしっかりと見つめて行くことの大切さを職員同士で共通理解をし楽しい保育園を目指したい。

・ほかの職員にも研修できたら子どもの見方も変わってくると思う。何らかの形でまた研修があれば良いと思う。

3-13 大分県国東市

(1) 実施日時

セミナー : 11/21(金)

プログラム : 12/13(土), 12/21(日), 1/11(日), 1/18(日), 2/1(日), 2/22(日)

参加者 : 保護者 20 人, 支援者 41 人 (回によって増減あり)

(2) 保護者のアンケート結果 (調査用紙人数=15 名)

①平均年齢

保護者 : 39.25 歳 (SD=6.38, 範囲 28~53 歳)

プログラムで対象とした子ども : 6.70 歳 (SD=4.13, 範囲 1~15 歳)

②プログラムへの満足度

とても不満	0 人
不満	0 人
満足	6 人
とても満足	9 人

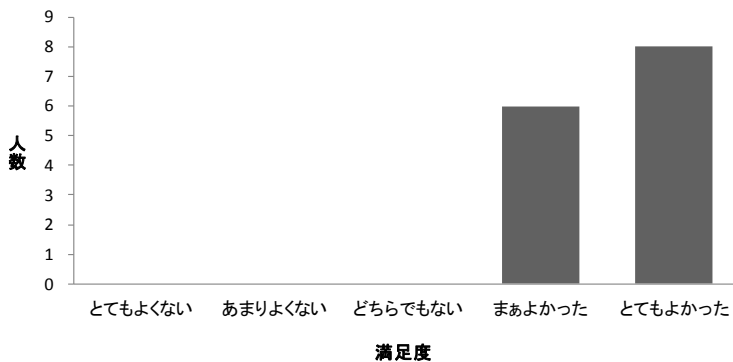
③お子さんへの関わり方について良かったこと・気づいたことはありますか？

-
- ・子供の良い所を再確認できたことで子供の困りにも心を広く持つことが出来た。
 - ・ペアプロで母親自身が頑張っていることを認めてもらったり、困っていること等にも共感してもらえたことで、母親も元気をもらえたり育児に対して前向きな気持ちをもてるようになりました。前向きになれたことで子供の良いところや今まで見えてなかった子供の頑張りにも目が向くようになり子供がとってみたいとおしく思えるようになりました。今までと比較して子供を沢山ほめれるようになってきたと思います。
 - ・同じことを言うのでも頭ごなしで言われるとやる気をなくすなど相手の気持ちが上向きになるような言い方に気がきました。
 - ・ほめることの大切さがすごくわかった、当たり前のことだと思い見てスルーしていたこともちゃんと見ていこうと思いました。
 - ・大きく変わったことは、怒らなくなりました。叱る事はまだありますが、感情で怒ったりしなくなりました。ほめる事が多くなりました。
-

④あなた自身について良かったこと・気づいたことはありますか？

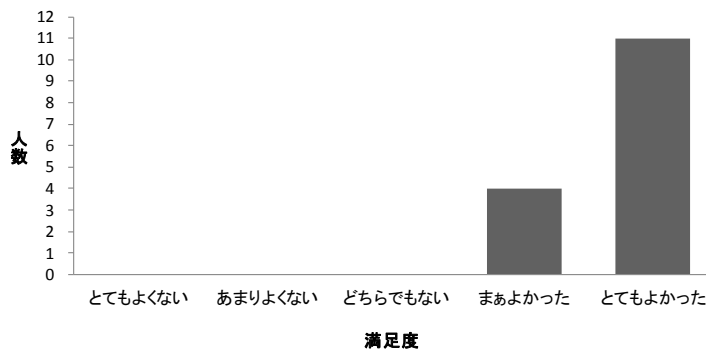
-
- ・自分もがんばっていることがわかったし、みんなも同じように悩みながらもがんばっていて勇気が湧いた。
 - ・私自身も仕事や育児でいっぱいいっぱいになっていてイライラしたりネガティブになってしまうことが多かったですがペアプロに参加して頑張っていることをほめてもらえたことや認めてもらえたことで私自身前向きな気持ちを持てるようになりました。育児に向かえるパワーがもらえた気がします。子供や家族をほめることで自分自身の気持ちもとてもポジティブになったと思います。
 - ・悩みをオープンにしたことで同じ悩みを持つ人や支援者の方から自分のしてきたことや考え方は間違っていないちゃんとできてると励まされて自分はダメな親かもと思っていた気持ちが楽になりました。
 - ・自分の考えが少し周りの人たちの話を聞いて同じだったりすると安心したりスッキリしたり不安な部分が減ったりしてすごく良かった。なんか楽になった気がします。
 - ・気持ちが楽になりました。夫婦で発見し、子供に対する態度がお互い変わっていききました。
-

⑤参加者同士でペアになって話し合ったり、発表したりしたことはいかがでしたか？



- ・最初は少しはずかしかったけど、みなさんの知恵を自分も吸収することが出来てよかったです。
- ・ペアで話すことで相手の方が自分と同じような悩みを抱えていたり同じように家事や育児も頑張っていて自分だけじゃないんだ。みんな同じような思いを抱えているんだ。と思えることが多く励みになりました。発表は緊張しましたがいろいろな人の意見も聞けてとても参考になりました。
- ・最初は内容が分かりにくい部分もあり話が中途半端で終わったりしましたが視点の違う人の意見は新鮮でした。子供の年齢が近いと話が合うのではと思う反面違う年齢の方が客観的に見れる一面もありました。
- ・ペアの方の考えなどを参考にできたりとよかったです。
- ・自分以外の方の気持ちがわかり、良かったです。

⑥ペアプロで取り上げる内容・テーマは、満足されるものでしたか？



- ・講演会などは聞くだけで良いお話は聞けますが、自分の気持ちが軽くなるわけではないので今回のプログラムはとても為になりました。
 - ・6回目のころになると参加者もみな気持ちが熱くなって話もたくさん出てくるので4人ぐらいでグルーブトーク等もできたらよかったです。ペアの人が大体固定していたので他の人とも話してみたかったです。
 - ・時間が短くてももう少しゆっくりと話を聞きたいと思いました。
 - ・これからの子育てで一番やっていけそうなことでよかったです。
- ・1, 2回目の頃はうまく内容がつかめなかったけれど、少しずつやり方などがわかってきたら、行動を同士で核などができてきたので、楽しく参加できました。

(3) 支援者のアンケート結果 (調査用紙人数=38名)

① 支援者の平均年齢と平均支援年数

平均年齢 : 40.80 歳 (SD=10.25, 範囲 25~62 歳)

平均支援年数 : 7.50 年 (SD=7.84, 範囲 0.5~35 年)

② 支援者の所属機関と職種

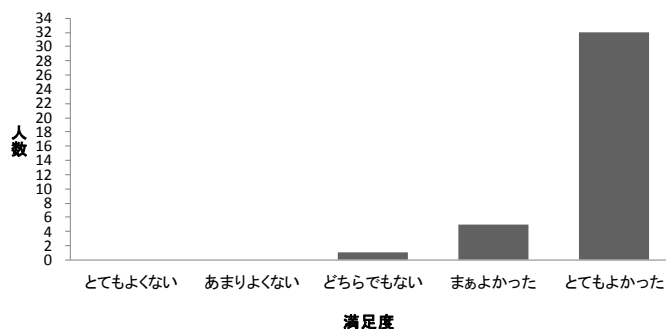
所属	大分大学	7	
	大分こども療育センター	1	
	別府発達医療センター	2	
	大分こども発達支援センター	1	
	保育園	5	
	幼稚園	2	
	こども園	2	
	小学校	5	
	中学校	2	
	国東市教育委員会	2	
	秀溪園	7	
	国東市役所	5	
	職種	臨床心理士	9
		教諭	5
保育士		11	
保健師		3	
言語聴覚士		1	
特別支援教育支援員		2	
社会福祉士		3	



③ プログラムへの満足度

とても不満	0 人
不満	0 人
満足	9 人
とても満足	28 人

④ 内容・テーマは職員向け研修として満足できるものでしたか？



・回答するにあたり、ペアプロの要旨を読み直しました。毎回受講する前に要旨を読み直せばよかったと後悔しています。目標をはっきりさせて受講すべきでした。後に私のようなものが受講するときは「めあて」を確認して欲しいです。

・行動で見ること、具体的に褒める手法を学んだことで、今後の相談支援に生かすことができると思う。

・保護者(母)が自分自身と子供について褒めることを意識し、実行できる。そしてその反応を確認できることが良い。

・保護者が参加する場を職員=支援者として関わり変化を共有できたことがよかった。

・行動で見ることで、見えてくるものがたくさんありました。自分自身、分かっているようで分かっていなかったことがたくさんあったことに気づき、勉強になりました。

3-14 長崎県対馬市

(1) 実施日時

セミナー : 11/21(金)

プログラム : 12/5(金), 12/19(金), 1/9(金), 1/30(金), 2/20(金), 3/6(金)

参加者 : 保護者 13 人, 支援者 21 人 (回によって増減あり)

(2) 保護者のアンケート結果 (調査用紙人数=8 名)

①平均年齢

保護者 : 39.15 歳 (SD=7.39, 範囲 29~54 歳)

プログラムで対象とした子ども : 8.38 歳 (SD=4.98, 範囲 2~16 歳)

②プログラムへの満足度

とても不満	0 人
不満	0 人
満足	6 人
とても満足	2 人

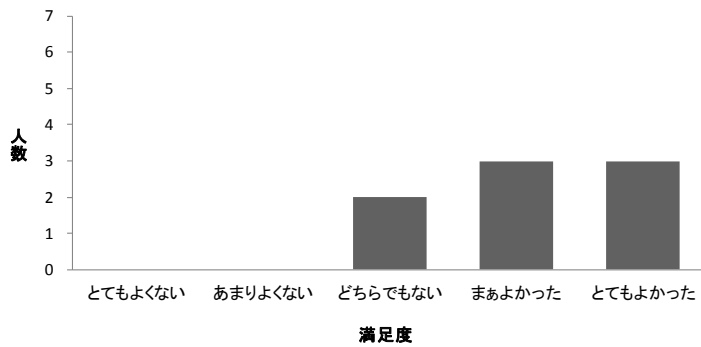
③お子さんへの関わり方について良かったこと・気づいたことはありますか？

- ・子どもから「何で優しくなった？」といわれることがあった。
 - ・少しずつだけ「自分でしたい」と意思表示するようになりました。
 - ・出来ていない中でここまでできているということを見極めてそこを褒めていく、という事は、習わないとなかなかできる事ではなかったと(今を考えれば)思うが、日常の中でそこを見つける意識が出来つつあることがよかったと思う。
 - ・色々なほめ方を試みるきっかけになりよかった。どんなほめ方をしたら効果があるのかわかった。
 - ・他の子と比べて、できないことばかりが気になってがみがみ怒っていたのですが、ここまでではできている、とか人と比べることなく出来ていることをたくさん見つけて、沢山褒めることができるようになってよかったです。あと、いろんなパターンで褒めることもいい効果があることが分かりました。
-

④あなた自身について良かったこと・気づいたことはありますか？

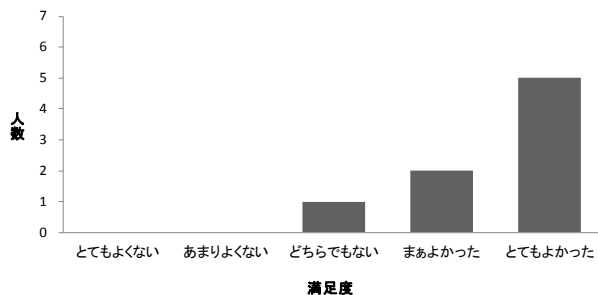
- ・一生懸命頑張っているところ(視点)が違うと分かった。
 - ・イライラすることが少なくなり、褒めることが多くなりました。
 - ・私はちょっと困った子(不登校)の子育てについて、こんなに学んでいるんだ!!という自己満足から、少しずつ子どものちゃんと「出来ているところ」を見つける力がついてきたと実感出来るところが良かった
 - ・子どもを怒ってばかり、叱ってばかりでダメな親だと思っていたけれど、怒っていない時も結構あると気づいた。
 - ・イライラしてすぐに手がでていたのが、今のところペアプロに参加してからは2,3回におさえられています。私にとっては劇的に減りました。イライラしても、とりあえずギリギリセーフを探してみようと思えたり、日頃たくさん褒めることで、息子自身が落ち着いていることが多くなったので、私も感情的に怒ることが減ってよかったです。
-

⑤参加者同士でペアになって話し合ったり、発表したりしたことはいかがでしたか？



-
- ・同感するところや、マイナス思っていたことですが、実はプラスになった発見が増えたことが良かった。
 - ・一人一人見ていくと個人差(抱えている問題)があり、治す方法ももっとたくさんでくるので、応えられるような専門的(支援者)がもっと必要だと感じました。
 - ・最初はみんな人見知りで、なかなか面識のない人とのペアで話すことには抵抗があった。徐々に慣れてきて顔見知りになってきた最後の辺は誰と組んでもまあまあ話せたが…。同年齢位の人とのペアだと話やすかったと思う。
 - ・子どもの年齢が違くと悩みも大きく違うし、話が合わず。
 - ・最初は全く知らない方がほとんどで、緊張しましたが、それぞれの悩みが聞けたり、聞いてもらったり出来てよかったです。参加者同士だけでは話がすすまない時に支援者の方の助けがあってよかったです。
-

⑥ペアプロで取り上げる内容・テーマは、満足されるものでしたか？



-
- ・支援者も関わる中で楽しく難しかったところも知れたこと
 - ・先生の話したことが、そのまま自分の中で受け入れた。
 - ・ギリギリセーフを探して、ほめポイントを見つけるっていう考え方が全くなかったのが、そういう考え方を教えていただいたことで、子どもと接することが楽になったように思います。
 - ・一人目の子育ての親さんと2, 3人と育てる親さんとはやはり悩みや不安は違うからペアを組むのも大変です。
-

(3) 支援者のアンケート結果 (調査用紙人数=7名)

① 支援者の平均年齢と平均支援年数

平均年齢 : 39.05 歳 (SD=12.32, 範囲 30~61 歳)

平均支援年数 : 3.37 年 (SD=4.56, 範囲 0~15 年)

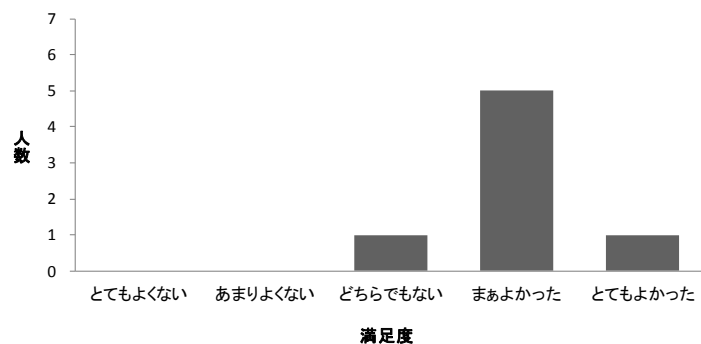
② 支援者の所属機関と職種

所属	雑知保育所	4
	認定こども園 親愛幼稚園	2
	対馬市社会福祉協議会	4
	対馬市地域包括支援センター	1
	対馬私立雑知中学校	1
	子育て支援センター豊玉ふれあい広場	1
	対馬市役所	2
	対馬いづはら病院	1
	長崎県立虹の原特別支援学校高等部対馬分教室	1
	対馬こども療育デイサービスセンターきらきらルーム	1
	職種	保育士
社会福祉士		2
教諭		1
保健師		2
理学療法士		1
養護教諭		1
児童発達支援管理責任者		1

③ プログラムへの満足度

とても不満	0 人
不満	1 人
満足	3 人
とても満足	2 人

④ 内容・テーマは職員向け研修として満足できるものでしたか？



・途中で都合等により不参加が続いて中途半端で終わってしまい研修不足だったと反省。

・保護者に対してあまり支援する必要がないという場面もあり、よくわからない点があった。支援者は必要なのか？事前学習だけでも勉強になりました。

・子どもだけではなく職員間にも応用できる内容だったと思う。

・職員研修とするなら、もう少し専門的になっても良いと思う。

・支援者としての立場からの研修で最初とまどった。なんとなく理解できたかなとの思い。勉強不足です。

4. 全体の成果

本事業は、子育て支援における「保護者支援」と「支援者研修」を事業の大きな柱として実施し、全国のNPO法人・社会福祉法人・親の会といった12の支援団体と連携し、当会が拠点としている愛知県も含め、全国13カ所で事業を展開することができた。子育て支援を全国どの地域でも安心して受けられるようになることや、その仕組みづくりを目指す上で、今回の事業の展開の意義は大きいと言える。

4-1 各地域の支援団体との連携における成果

ペアレント・プログラムは、地域の保育士や保健師、福祉事業所の職員など、必ずしもペアレント・トレーニングの専門家ではない支援者によって実施されることで、子育て支援を全国どの地域でも安心して受けられるようになることを目指している。そのため、本事業は、支援者研修も同時に実施しており、ペアレント・プログラム普及を目指した仕組みづくりに貢献する内容である。本事業において、北海道・福島(2地域)・静岡・奈良・和歌山・岡山・徳島・島根・山口・大分・長崎の、NPO法人・社会福祉法人・親の会といった12の連携団体の協力を得て、合計で、保護者160人、支援者176人がペアレント・プログラムに参加することができたことはひとつの大きな成果であると言える。また、それだけ、現状以上に、子育てにおける保護者支援を必要とする地域・保護者・支援者が存在することが明らかになったとも言える。

4-2 保護者支援における成果

本事業は、発達障害をはじめとした“育てにくい”子どもの特性によって、保護者が子どもを理解しづらく、そのことが不適切な養育を招くという悪循環があるという現状から、まずは保護者が子どもの行動を客観的に理解するための支援の必要があることを目的として実施した。保護者が子どものことを「性格」ではなく「行動」で捉えられるようになることに、ペアプロは意義があるといえる。具体的には、「現状把握表」(巻末付録①)を用いて、保護者自身と子どもの「行動」を、「いいところ」「努力しているところ」「困っているところ」の3つに分けて記述することが保護者には求められる。まずこのことだけでも、保護者にとってかなりの視点の変換をもたらすことがうかがえた。なぜなら、子どもの「行動」を記述することを今までに取り組んだことのない保護者は多く、その分、「行動」を記述するために子どものことを詳細に想起し、観察するようになるからである。詳細に観察するようになると、子どもは保護者が今まで漠然と感じていたよりも“意外と”頑張っている、ということに気づけるようになる。それが4,5回目のギリギリセーフにつながっていく。そうした保護者の気づきは、終了後のアンケート「子どもの関わり方について良かったこと・気づいたこと」の回答に少なからず見られた、「苦手なところがたくさんある子だと思っていたのが、本人なりににがてを克服しようとしていることがよくわかった。」や「問題があると感じる行動でもその中でまだ出来ていることがあり、我慢している部分があって、それに気づくことができた。」という記述に現れていると言える。

また、ペアプロは、子どものことのみを扱うのではなく、プログラムを受講している保護者自身のことも子どもと同様、現状把握表を記入することを求めている。これは、プログラム進行上の意義としては、まず保護者自身のことを題材として記入することで子ども編にとりかかりやすくなるということがひとつ挙げられるが、より重大な意義としては、「保護者自

身も日常生活の中で頑張っている」ことに気づけるようになるということである。本事業に参加した保護者は、約半数が専業主婦という立場であったが、日々の家事や育児が家以外ではなかなか見えにくく、評価されることの少ないと考えられる専業主婦においては、まずは自分自身で自分の頑張りを発見できることは、日々の生活の中で自己肯定感を得るために重要であろう。その成果は、終了後のアンケート「自分自身について良かったこと・気づいたこと」の回答に見られた、「子育てをしている自分を誇りに思えてきた。自分で自分を認められるようになってきた。」や「自分もがんばっていることがわかったし、みんなも同じように悩みながらもがんばっていて勇気が湧いた。」という記述に現れていると言える。

さらに、ペアプロでは、個人でワークを進めるだけではなく、毎回ペアワークおよびペアワークの結果書けた内容をグループ内で発表するというやり方を導入している。本プログラムは、集団で行うために、どうしてもワークの理解度には個人差が生じる。それを補うために、ペアを上手に組むことはプログラムがうまく進行するために必須である。加えて、プログラム6回の中でいろいろな人とペアになり子育てなどの話をする中で、「困っているのは自分だけではない」と感じられることも多い。これは、特に子育ての相談相手がいないなど孤立しがちな保護者にとっては価値ある体験となる。そして、ペアで共有したことをグループ内で発表することによって、自分の考えや書いたことが認められたという体験をすることも重要である。その成果は、終了後のアンケート「ペアになって話し合ったり、発表したりしたことはいかがでしたか？」の回答において、92%が「とてもよかった」「まあよかった」と回答し、「初めは緊張した気持ちもあったけど、自分の話を聞いてもらえる事、伝える事で考えがより具体的になってよかった。」や「毎回違う方とペアになって最初は戸惑いましたが、結果いろんな方と話す機会を持てて良かったです。発表することにより少しずつ自信が持てました。」という自由記述で回答したことに現れていると言える。

以上より、本事業では、子育てにおける保護者支援のために、子どもの現在の状態（何ができていて、何が難しいのか）を理解するペアレント・プログラムという方法を提供し、一定の成果を得ることができたと言える。

4-3 支援者研修における成果

本事業は、子育て支援において、ペアレント・トレーニングなど保護者支援の連続講座が必要とされているにもかかわらず、全国的に共通して普及している支援方法がないという課題を解決するために、簡便なプログラムであるペアプロの支援者研修を行うということを目的として実施した。ペアプロは、全6回を通じて、子どもの「行動」をとらえることができるようになることを目指しているために、支援者にとっても取り組みやすいものと言える。特に、平成24年に児童福祉法の改正により、障害児通所支援事業（放課後等デイサービスなど）にさまざまな団体が参入しやすくなったが、子どもの支援に加えて、保護者の支援にまでは追いついていないという現状がある。本事業の参加支援者のうち、アンケートを回収した中では「資格」の未記入が31%であり、対人援助職に関する資格をもたないまま、日々奮闘している可能性がある。さらに、若い世代（20代～30代前半）の参加者は3分の1程度であり、研修内の様子やアンケートの感想「これまでの保護者へのサポートは、感情への注目と問題行動への対処についての相談が主だったが、保護者の認知を少し変えるだけでこんなにも保護者ももつ力を引き出し安定していくのかと非常に驚き感動した」（32歳・女性）といった内容を見ても、支援方法を模索していることがうかがえた。子育て支援技術の普及・研修は喫緊の課題であると言える。

では、参加した支援者がプログラムの効果をどのように感じていたかということを見てみると、終了後のアンケート「保護者サポートとして役立つものでしたか？」の回答では、93%が「とてもよかった」「まあよかった」と回答しており、プログラムの効果を実感できたことがうかがえる。自由記述回答においても、「回を重ねるごとに保護者の変化を感じることができた」という記述が複数見られ、支援者から見ても、保護者の様子が良い方に変化したと感じられたようであった。

また、子育て支援は継続して行われていくべきであり、ペアプロもその例外ではない。そのため、ペアプロが今回限りで終わることなく、地域の支援者が主体で実施していくことを最終的な目標としている。そのためには、今回研修として参加した支援者が、今後やっていけるという感覚をもてることが重要である。その点について、終了後のアンケート「職員研修として満足できるものでしたか？」の質問には、95%の人が「とてもよかった」「まあよかった」と回答しており、ある程度の成果が得られたと言える。自由記述回答においても、「保護者の気持ちに変化をみる事が出来参考になった点が多かった。また保護者の関わりの方の変化で子供たちの行動も変わってくることも再確認できた。」や「保護者が参加する場を職員＝支援者として関わり変化を共有できたことがよかった。」という記述が見られ、支援者が支援技術の幅を広げるために役立ったことがうかがえる。一方で、自由記述回答の中には、「継続的な支援者の養成が必要と感じる。(支援者を1人でも増やすため)スキルアップ研修等、スーパーバイザーから助言を得られる機会があると、自信を持ちながら実施しやすくなると感じる。」など、今後のペアプロ実践に不安を感じる声もあり、研修体制・実践のフォロー体制については今後も課題が残った(後述)。

以上より、本事業では、地域の支援者に対して、子育て支援における支援方法を提供し、課題もあるものの、一定の成果を得ることができたと言える。

5. 今後の課題・取り組みについて

本事業の「ペアレント・プログラム」は、ある程度の成果を得られたが、今後のさらなる発展のために、3つの課題を残した。以下にその内容と今後必要と考えられる取り組みについて述べる。

1点目は、今回実施した保護者に対するフォローアップの充実である。今回、プログラム実施の時期が年度の後半に集中したこともあり、フォローアップをじゅうぶんに実施できたとは言い難い状況であった。どのような支援も、継続して実施することに意味があり、今回保護者が身につけた「行動を見る」という考え方も、日々の育児や子どもの成長の中で、時間とともに忘れがちになってしまうことが予想される。そのため、プログラム終了後、数ヶ月後にフォローアップのためのセッションを設けることが推奨されるが、その体制作りまで至ることができなかった。今後は、ペアプロのマニュアルの改訂によって、フォローセッションを確立させ、今回講師ではなかった地域の支援者のみでもフォローが行えるようにしていくことに取り組む必要がある。

2点目は、今回研修参加した支援者がプログラムを実施するためのサポート体制を整えることである。サポート体制とは、プログラム実施に対するサポートと、プログラム運営に関するサポートの2種類があると考えられる。前者については、前項で述べたように、支援者の中には、今後、地域でペアプロを実施していくにはまだまだ技量が不足している者も多い。そうした支援者や地域に対して、どのようにプログラム実施のフォロー体制を整えるかということが今後の課題である。そのために今後は、ペアプロのスーパーバイズ（助言）をどのような体制で行うかということに取り組む必要がある。後者のプログラム運営に関しては、今回の事業終了後のペアプロ実施について検討する必要がある。本事業では、子育て支援に関して意欲と探究心、そして研修の時間を捻出するという「行動」を起こすことができる12の連携団体の協力のもと、どの地域もプログラムを終えることができたが、運営に何がどのくらい必要かといった事務的な体制は、当会を含め、まだまだ整っているとは言い難い現状である。各支援者の所属先や団体との調整も必要となるだろう。そのため、今後、ペアプロを各地域で継続するためには、今回の連携団体のような当事者団体や支援団体が運営の中心となって、ペアプロ実施のための事業の事務的な部分を担っていく必要があるだろう。

3点目は、ペアプロを実施する地域のさらなる拡張である。本事業では12の連携団体の貴重な支援を得て、13の地域でペアプロを実施することができた。実施地域のアンケート結果から慮るに、子育て支援のための方法を必要としている保護者・支援者はその他の地域にも数多く存在していると考えられる。今回、一定の良い効果を得られたことから、今後もペアプロを実施する地域を増やし、全国どの地域でも安心して子育て支援を受けられることを目指す必要がある。

巻末付録

- ① 現状把握表（自分編，子ども編）

- ② 修了証

- ③ 各地域のチラシ

- ④ 事前セミナースライド

- ⑤ アンケート用紙

巻末付録① 現状把握表

第1回目ワークシート

【自分編】

いいところ	努力しているところ	困っているところ

54

【子ども編】

いいところ	努力しているところ	困っているところ

ペアレント・プログラム 修了証

様

あなたは今回、ペアレント・プログラムに参加し、無事、修了されました。
以下のコツをときどき思い出し、これからも、子育てを楽しんでくださいね。

平成 年 月 日



特定非営利活動法人 アスペ・エルデの会
統括ディレクター 辻井正次

ペアプロで得た

コツ!!

①行動でみる！

「動詞（～する）」で、お子さんやご自身（の行動）を見てみましょう。
「性格」を変えるのは難しくても、「行動」は変えられます。

②叱るだけでは効果半減！

ゆゆどころ・努力してゆゆところをほめてみよう！

「ダメ」と叱るだけでは、より良い行動になかなかつながりません。
今できていることを、できて当たり前と思わずに、どんどんほめてのび
ましょう。お子さんが喜ぶほめ方を、宝探しのよう探してみましよう。

③困ってゆゆところの中にギリギリセーフを見つけよう！

困っている行動の中で、「この時は」「この場所なら」「この相手なら」
「〇回に1回は」できている、というところを見極めましよう。

④ひとりで抱えず相談しよう！

一人で悩まないで、まわりの人に相談したり頼ったりましよう。
相談できる機関を見つけ、情報を得ましよう。
あなたはひとりではありません。

その他

- ・受講料は無料です。
- ・筆記用具をご持参ください。
- ・お子様の入室はお断りします。
- ・託児の用意はありません。
- ・全6回受講を原則としますが、ご不明な点をご相談ください。
- ・受講決定者には改めてご連絡しますが、10/10までにご連絡がない場合はお問い合わせください。



会場の「自治労会館」は
こちらです。

- <申込み先>
電話またはFAXにて、
【#91 笹尾】までご連絡ください
★9/30（火）締切りです
★受講決定者には改めてご連絡します

主催：特定非営利活動法人アスバ・エリ子の会
共催：特定非営利活動法人北海道学習障害児・母親の会クローバー
協办：札幌市自院院・発達障がい支援センター おがる

ペアレントプログラム FAX申込み書

お名前			
所属/会員番号	小学部・中学部・高等部 / 会員№		
お子さんの学年	幼(年長・年中) / 小学・中学・高校	年生	
ご住所	〒 - -		
連絡先(携帯番号)	- -		

※番号は必ずお書きください。

(申込み締め切り 2014/9/30)

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 in 札幌市
NPO法人クローバー会員限定子育て講座

『ペアレントプログラム』

子どもの困った「行動」に頭を悩ませていませんか？
出来るところをみつめて、ほめるコツを学びませんか？
「行動」をみることで子どもの現状を把握し、保護者が子育てに自信が持てるように支援します。

対象

幼児～高等部年齢の子を持つクローバー会員（原則、全6回参加できる方）
（定員15名。定員を過ぎましたらお断りのご連絡をいたします。）

講師

片桐 正敏氏（浜松医科大学 子どものこころの発達研究センター）
北大室橋先生のゼミご出身です

プログラム内容

- 第1回 カイダンス・現状把握表の書き方
 - 第2回 行動で書く
 - 第3回 行動のカテゴリーをみつける
 - 第4回 キリギリセーフ！をみつける
 - 第5回 キリギリセーフ！をきわめる
 - 第6回 ペアプロでみつけたことを確認する
- ～楽しい子育てにつながるポイントを学びます～



日程および会場

- ・会場 北海道自治労会館 札幌市北区北6条西7丁目5-3（地図裏面）
- ・日程

回	日時	部屋
第1回	10月17日(金) 9:30～11:00	第4会議室
第2回	10月31日(金) 9:30～11:00	第3会議室
第3回	11月14日(金) 9:30～11:00	第4会議室
第4回	11月28日(金) 9:30～11:00	第4会議室
第5回	12月12日(金) 9:30～11:00	第4会議室
第6回	12月26日(金) 9:30～11:00	第4会議室

裏面もご覧ください

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

「子育てにおける保護者支援と支援者研修」事業 相馬会場

ペアレント・プログラム講座開催のご案内

子どものことで「気になること」や「心配なこと」がありませんか？
楽しく、子育てできていますか？

このプログラムは、子育てに難しさを感じる保護者の方が、お子さんの「行動」の客観的な理解の仕方を学び、楽しく子育てに臨む自信を身につけることを目的としています。ぜひご参加いただき、子育て仲間を見つづける機会として、ご活用ください。

今回は、地域の子育て支援者の方にもご参加いただき、ペアレント・プログラムの研修の機会とすることも目的としています。地域の支援の展開のために、ご理解・ご協力をお願いいたします。



プログラム内容：

第1回	現状把握表を書こう！
第2回	行動で考えよう！
第3回	行動のカテゴリーを見つめよう！
第4回	ギリギリセーフ！を見つめよう
第5回	ギリギリセーフ！をきわめよう
第6回	ペアプロで見つけたことを確認しよう

会場：相馬市総合福祉会館（はまなす館） 第2会議室

日程：11月12日、26日

12月10日、17日

1月14日、28日（いずれも水曜日）

時間：10：00～11：00

講師：黒田 美保 氏

（福島大学 子どものメンタルヘルス支援事業推進室 特任教授）

その他：受講料は無料です。

筆記用具をご持参ください。

主催：NPO 法人アスベ・エルデの会

共催：障がい児放課後支援『ゆうゆうクラブ』

★ 申込方法は裏面をご覧ください ★

原則、全6回のご参加をお願いしますが、
難しい方もご相談ください！

「ペアレント・プログラム」って？

お子さんの中には、自然にその場の状況を汲み取り、自分で試行錯誤してスキルを身に付けていく子もいれば、ひとつひとつ丁寧に教えてもらってスキルを獲得していく子もいます。

従来、日本における一般的な子育てでは「叱って育てる」方法でした。子どもは叱られることで「自分のやり方が違う」ということがわかり、自分で違う方法を見つけ、正しい方法を覚えていくというものです。

しかし、「ひとつひとつ丁寧に教えてもらってスキルを獲得する子ども」の場合は「叱られる」だけでは「どうすればいいのかわからず、増えるのは失敗や叱られるという体験だけです。

今回のプログラムでは、子育てのノウハウを覚えてもらうのではなく、子どもの現状をどのよう把握し、課題を見つけて整理するか、具体的な工夫をするにはどうすればいいのか、を学ぶことができます。蓄めることと課題を達成できることで、子どものよさを認めることができ、子どもも親も自己肯定感を持つことができます。

..... 以下にご記入の上、このページを FAX でお送りください



申込先：特定非営利活動法人 さぼーとセンターびあ
障がい児放課後支援『ゆうゆうクラブ』

* FAXにてお申し込みください

FAX：0244-35-2830（担当：菅野）

申込〆切 10月30日

お名前	
連絡先住所	
電話番号	

※参加人数把握のため、FAXにてお送りください。

※参加者への受付通知はいたしません。必ず上記の連絡先のご記入をお願いいたします。

※いただいた個人情報には当研修以外の目的には使用致しません。

〒976-0025

福島県相馬市岩子字明神前25-1 障がい児放課後支援『ゆうゆうクラブ』

TEL・FAX 0244-35-2830

携帯電話 080-2384-2720

（こちらより、緊急時等ご連絡差し上げる場合があります）

E-mail yuyucubsumai@gmail.com

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
「子育てにおける保護者支援と支援者研修事業」 富士圏域会場 (全6回)

ペアレント・プログラム講座のご案内

主催：特定非営利活動法人アスベ・エルデの会
共催：NPO 法人 EPO
協力：富士圏域自立支援協議会子ども部会
ペアプロ実行委員会

子どもの困った「行動」に頭を悩ませていませんか？
出来るところをみつけて、ほめるコツを学びませんか？

このプログラムは、子育てに難しさを感じる保護者の方が、お子さんの「行動」の客観的な理解の仕方を学び、楽しく子育てを行う自信を身につけること・子育ての仲間を見つかる機会とすることを目的とした、全6回のプログラムです。ぜひ、ご参加ください。

今回の事業は支援者の研修も兼ねているため、皆様が受けられているペアレント・プログラムをまわりで見学するというかたちで複数の支援者も参加することでご理解の上、ご参加ください。今後の支援の広がりのため、ご協力よろしくお願ひいたします。

対象

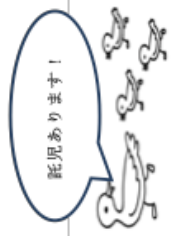
幼児～小学生の子を持つ保護者の方 (原則、全6回参加できる方)
【10名程度】

講師

浜田 恵 氏 (浜松医科大学子どもこころの発達研究センター 特任助教)

プログラム内容

- 第1回 ガイダンス・現状把握表を書いてみよう
 - 第2回 行動で考えよう
 - 第3回 行動のカテゴリーをみつけよう
 - 第4回 キリギリサーフ！をみつけよう
 - 第5回 キリギリサーフ！をきわめよう
 - 第6回 ペアプロでみつけたことを確認しよう
- ～楽しい子育てにつながるポイントを学びます～



裏面もご覧ください

静岡県富士市 (連携団体：NPO 法人 EPO) (A4 両面)

会場

サポートセンターくろーばー
〒417-0801 富士市大淵 2710-1
(特養 かたくら明和園の横)

開催日時

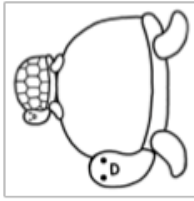
- 第1回 1月 9日 (金) 第4回 2月 13日 (金)
- 第2回 1月 16日 (金) 第5回 2月 27日 (金)
- 第3回 1月 30日 (金) 第6回 3月 6日 (金)

※時間はすべて、18:30～19:30

※初回はアンケートのご記入をお願いいたします、18:15にお越しください。
(難しい場合は、事前にご連絡ください。)

その他

- ・受講料は無料です。
- ・筆記用具をご持参ください。
- ・お子様の入室はご遠慮いただきます。
- ・託児をご用意いたします。お子様によっては必要な物をご持参ください。(当日、託児職員に引き継いでください)
- ・全6回受講を原則としますが、ご不明な点はお相談ください。
- ・受講決定者には改めてご連絡しますが、1/6 (水) までにご連絡がいかない場合はお問い合わせください。



申込先

申込方法：必要事項をご記入の上、申込用紙をFAXかメールにてお申し込みください。

必要事項：お名前、連絡先電話番号、お子さんの年齢・性別

申込先：地域生活支援センターせふりー

FAX 0545-32-8840

メール fujimoto-ryouiku@seishinkai.info

担当 坂間 多加志

★申込〆切 12月 26日 (金)

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業



「子育てにおける保護者支援 と 支援者研修事業」 名古屋会場 (全6回)

『ペアレント・プログラム』



主催： 特定非営利活動法人アスベ・エルデの会

子どもの困った「行動」に頭を悩ませていませんか？
できるところをみつけて、ほめるコツを学びませんか？

このプログラムは、子育てに難しさを感じる保護者の方が、お子さんの「行動」の客観的な理解の仕方を学び、楽しく子育てに臨む自信を身につけることを目的としています。

また、子育て支援者の方にもご参加いただくことで、ペアレント・プログラムの研修の機会とすることも目的としています。

是非、ご参加いただき、子育て仲間を見つめる機会にしていきたいと思いますと思います。皆様のお申込み、お待ちしております。

対象

*幼児～小学生の子を持つ保護者の方 (原則、全6回参加できる方)

【定員10名】

*子育て支援者の方：保育士・保健師・社会福祉士・心理士・福祉事業所職員など
(原則、全6回参加できる方)

【定員10名】

講師

明歌光宣氏 (中京大学心理学部講師/NPO法人アスベ・エルデの会知多支部ディレクター)

プログラム内容

第1回 ガイダンス・現状把握表を書いてみよう

第2回 行動で考えよう

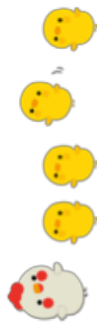
第3回 行動のカテゴリをみつけよう

第4回 キリギリセーフ！をみつけよう

第5回 キリギリセーフ！をきわめよう

第6回 ペアプロでみつけたことを確認しよう

～楽しい子育てにつながるポイントを学びます～



裏面もご覧ください

愛知県名古屋市 (A4 両面)

日程および会場

・会場 第1アメ横ビル 4階 第一会議室 名古屋市中区大須 3-30-86
地下鉄上前津駅下車 徒歩5分(http://osu-ameyoko.co.jp/?page_id=2563)

・日程

回	日程	(プログラム実施時間)	支援者
第1回	10月9日(木)	10:00~11:30	9:15集合
第2回	10月23日(木)	10:00~11:30	9:30集合
第3回	11月6日(木)	10:00~11:30	9:30集合
第4回	11月20日(木)	10:00~11:30	9:30集合
第5回	12月11日(木)	10:00~11:30	9:30集合
第6回	12月18日(木)	10:00~11:30	9:30集合

※支援者としてご参加の方は、11:30~12:00で事後レクチャーを行います。

その他

- ・受講料は無料です。
- ・筆記用具をご持参ください。
- ・お子様の入室はご遠慮いただきます。
- ・託児はございません。
- ・全6回受講を原則としますが、ご不明な点はお相談ください。
- ・受講決定者には改めてご連絡しますが、10/7(火)までにご連絡がない場合はお問い合わせください。



<申込み先>

【保護者】 NPO法人アスベ・エルデの会 HP <http://www.as-japan.jp/>

まなぶセミナー申込サイト <http://www.as-japan.jp/seminar/204>

から、お申込み下さい。

【支援者】 ibasho@as-japan.jp まで、

件名を【W AMペアレント・プログラム支援者研修申込み】として

①お名前 ②所属 ③電話番号 ④メールアドレスをご記入いただき、メールにてお申込み下さい。

★10/6(月)締切りです

お問い合わせ

NPO法人アスベ・エルデの会事務局 (担当 宮地)

【電話・FAX】 052-505-5000 [メール] ibasho@as-japan.jp

※ お問い合わせは、出来るだけメールにてお願いします。

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

「子育てにおける保護者支援と支援者研修事業」和歌山会場（全6回）

ペアレント・プログラム講座のご案内

主催：特定非営利活動法人アスベ・エルズの会
共催：和歌山つくし医療・福祉センター
協力：

子どもの困った「行動」に頭を悩ませていませんか？
出来るところをみつけて、ほめるコツを学びませんか？

このプログラムは、子育てに難しさを感じる保護者の方が、お子さんの「行動」の客観的な理解の仕方を学び、楽しく子育てに臨む自信を身につけること・子育ての仲間を見つける機会とすることを目的とした、全6回のプログラムです。ぜひ、ご参加ください。

今回の事業は支援者の研修も兼ねているため、皆様が受けられているペアレント・プログラムをまわりで見学するというかたちで複数の支援者も参加することでご理解の上、ご参加ください。今後の支援の広がりのため、ご協力よろしくお願いたしました。

対象

幼児～小学生の子を持つ保護者の方（原則、全6回参加できる方）
【15名程度】

講師

片桐正敏 氏（浜松医科大学子どもこころの発達研究センター 特任助教）

プログラム内容

- 第1回 カイダンス・現状把握表を書いてみよう
 - 第2回 行動で考えよう
 - 第3回 行動のカテゴリをみつけよう
 - 第4回 ギリギリセーフ！をみつけよう
 - 第5回 ギリギリセーフ！をきわめよう
 - 第6回 ペアプロでみつけたことを確認しよう
- ～楽しい子育てにつながるポイントを学びます～



裏面もご覧ください

和歌山県岩出市（連携団体：和歌山つくし医療・福祉センター）（A4 両面）

会場

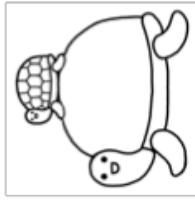
里親支援センターなでしこ（乳児院）内 研修室
（和歌山つくし医療・福祉センター 横）
和歌山県岩出市中迫 667-1

※つくし医療・福祉センターではございませんので、ご注意ください。

開催日時

第1回	12月 11日 (木)	第4回	1月 29日 (木)
第2回	12月 25日 (木)	第5回	2月 12日 (木)
第3回	1月 15日 (木)	第6回	2月 26日 (木)

時間はすべて、14:00～15:30



その他

- ・受講料は無料です。
- ・筆記用具をご持参ください。
- ・お子様の入室はご遠慮いただきます。
- ・託児はございません。
- ・全6回受講を原則としますが、ご不明な点はお相談ください。
- ・受講決定者には改めてご連絡します。

【お問い合わせ】

ご質問等に関しては、下記の連絡先にお電話にてお願いいたします。
また、対応は阪上[臨床心理士（りんしょうしんりし）]がお受けいたしますので
お電話の際は、「阪上」を呼び出してください。
なお、当センターの受付時間は、月～金の9時から17時となりますので
お問い合わせは受付時間内でお願いたします。

お問い合わせ
和歌山つくし医療・福祉センター
(担当：阪上[臨床心理士])
電話：0736-62-0080（阪上 方呼出）

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
「子育てにおける保護者支援と支援者研修事業」岡山会場（全6回）

ペアレント・プログラム講座のご案内

主催：特定非営利活動法人アスベ・エルデの会
共催：アリスの会

子どもの困った「行動」に頭を悩ませていませんか？
出来るところをみつけて、ほめるコツを学びませんか？

このプログラムは、子育てに難しさを感じる保護者の方が、お子さんの「行動」の客観的な理解の仕方を学び、楽しく子育てに臨む自信を身につけること・子育ての仲間を見つける機会とすることを目的とした、全6回のプログラムです。ぜひ、ご参加ください。

今回の事業は支援者の研修も兼ねているため、皆様が受けられているペアレント・プログラムをまわりで見学するというかたちで複数の支援者も参加することでご理解の上、ご参加ください。今後の支援の広がりのため、ご協力よろしくお願いたします。

対象

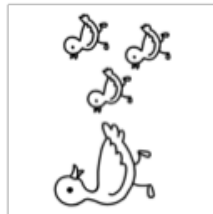
幼児～小学生の子を持つ保護者の方（原則、全6回参加できる方）
【10名程度】

講師

田中尚樹 氏（日本福祉大学 社会福祉実習教育研究センター 助教/NPO法人アスベ・エルデの会 理事）他

プログラム内容

- 第1回 ガイダンス・現状把握表を書いてみよう
- 第2回 行動で考えよう
- 第3回 行動のカテゴリをみつけよう
- 第4回 ギリギリセーフ！をみつけよう
- 第5回 ギリギリセーフ！をきわめよう
- 第6回 ペアプロでみつけたことを確認しよう
～楽しい子育てにつながるポイントを学びます～



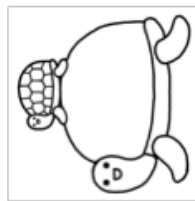
裏面もご覧ください

会場
きらめきプラザ（岡山市北区南方2丁目13-1）
7階 706号室

※駐車スペースが少ないため、公共交通機関をご利用願います。

開催日時

- 第1回 12月 7日（日） 第4回 1月 25日（日）
 - 第2回 12月 21日（日） 第5回 2月 15日（日）
 - 第3回 1月 11日（日） 第6回 2月 22日（日）
- 時間はすべて、10:00～11:30



その他

- ・受講料は無料です。
- ・筆記用具をご持参ください。
- ・お子様の入室はご遠慮いただきます。
- ・託児はございません。
- ・全6回受講を原則としますが、ご不明な点はお相談ください。
- ・受講決定者には改めてご連絡しますが、12/3（水）までにご連絡がいかない場合はお問い合わせください。

申込先

申込方法：メール または FAX でお申し込みください。

申込先・お問い合わせ先（担当 森石）：

（メール）alice_seminar@yahoo.co.jp （FAX）086-265-7991

申込時に、以下の内容についてお知らせください。

- ①お名前 ②連絡先電話番号 ③お子さんの年齢（学年） ④お子さんの性別

※①②は本事業の参加者集約のため、③④はプログラム実施の参考のために使用させていただきます。本事業以外に用いることはありません。

申込〆切
11月30日（日）

岡山県岡山市（連携団体：アリスの会）（A4 両面）

子育て支援講座開催のご案内

楽しい子育てのコツ（初級編）in徳島

～ペアレント・プログラム～

この講座は「落ち着きがなくて大変」など、ちょっと手のかかるお子さんの特徴を知り、ほめ方を増やすことで子どもの育ちにプラスの効果をもたらそうという母親主体のグループ・プログラム初級編です。
ぜひ一緒に、楽しい子育てのヒントを見つけていきましょう！



子どものことで「気になること」や「心配なこと」はありませんか？

■対象

徳島にお住まいで、小学生までのお子さんの子育てをされている保護者の方（定員10名）
※原則すべての回に継続参加できる方

■会場・日程・時間

【会場】 沖洲マリナーミナル（2階）

【日程】 第一回・10月7日（火）
第二回・10月21日（火）
第三回・11月4日（火）
第四回・11月11日（火）
第五回・11月25日（火）
第六回・12月9日（火）

【時間】 13時30分～15時（13時受付開始）

※支援スタッフ（就学前児童に関わる職種の方）も募集しています。関心のある方は、下記までお電話ください。

■内容・講師・その他

【主な内容】

- ・今の子どもの状態を整理しよう
- ・行動で考えていこう
- ・ほめるコツをつかもう
- ・子育ての仲間をみつけよう

⇒楽しい子育てにつながるポイントが学べます

【講師】 浜松医科大学 子どものこころの発達研究センター特任助教：村山恭朗氏

【その他】

- ・受講料は無料です。
- ・筆記用具を持参してください。
- *託児は行っておりませんのでご了承ください。



＜お申し込み先＞ **締め切り 2014年9月30日**

徳島県の自閉スペクトラム症（高機能自閉症およびアスペルガー症候群）と診断された子供を持つ保護者の会 オーティの会

電話：080-6399-1593（受付時間：9:00-17:00）

E-mail：faq@auti.sakura.ne.jp

*お電話かメールにてご連絡ください。

島根県益田市（連携団体：ぷらっと）

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

子育て支援講座のご案内
楽しい親子関係作りのプログラム
in 益田市

子どものことで「気になること」や「心配なこと」がありませんか？

この講座は、「落ち着きがなくて大変」など、ちょっと手のかかるお子さんの特性を知り、ほめ方を増やすことで、子どもの育ちにプラスの効果をもたらそうという、母親主体のグループ・プログラム初級編です。ぜひ一緒に、楽しい子育てのヒントを見つけていきましょう！



★会場・日程・時間

会 場： 益田市高津公民館（島根県益田市高津2丁目5-2 柿本人麻呂神社そば）
日 程：10月14日（火）、10月28日（火）、11月11日（火）、
11月18日（火）、12月 2日（火）、12月 9日（火）
時 間： 9：30～11：00

★対象

市内在住で小学生までのお子さんの子育てをされている保護者の方（10名程度）
（※ 研修の受講については、原則6回の参加を要します）
子育てを支援するスタッフの参加も募集しております。下記までお問い合わせください。



★内容・講師・その他

主な内容 ・今の子どもの状態を整理しよう
・行動で考えていこう
・ほめるコツをつかもう
・子育ての仲間を見つけよう

楽しい子育てにつながる
ポイントが学べます！

講 師 浜田 恵（浜松医科大学子どものこころの発達研究センター 特任助教）
そ の 他 受講は無料です。
筆記用具を持参してください。



申込先： 相談支援事業所ぷらっと
お電話かメールにてご連絡ください。

電話：0856-32-0720

メール：puratto.yotte@beige.plala.or.jp（担当：池永）

主催：特定非営利活動法人アスペ・エルデの会 共催：社会福祉法人E.G.F相談支援事業所ぷらっと
協力：益田市子育て支援課・島根西部発達障害者支援センター ウインド

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

「子育てにおける保護者支援と 支援者研修事業」 長門会場 (全6回)

ペアレント・プログラム講座のご案内

主催：特定非営利活動法人アスベ・エルズの会
共催：発達障がいを考える会 ブルースター
協力：長門市

子どもの困った「行動」に頭を悩ませていませんか？

出来るところをみつめて、ほめるコツを学びませんか？

このプログラムは、子育てに難しさを感じる保護者の方が、お子さんの「行動」の客観的な理解の仕方を学び、楽しく子育てを行う自信を身につけること・子育ての仲間を見つける機会とすることを目的とした、全6回のプログラムです。ぜひ、ご参加ください。

今回の事業は支援者の研修も兼ねているため、皆様が受けられているペアレント・プログラムをまわりで見学するというかたちで複数の支援者も参加することでご理解の上、ご参加ください。今後の支援の広がりのため、ご協力よろしくお願いたします。

対象

幼児～小学生の子を持つ保護者の方（原則、全6回参加できる方）
【15名程度】

講師

辻井正次 氏(中央大学現代社会学部 教授/浜松医科大学子どもこころの発達研究センター 特任助教/特定非営利活動法人 アスベ・エルズの会代表)

プログラム内容

- 第1回 ガイダンス・現状把握表を書いてみよう
 - 第2回 行動で考えよう
 - 第3回 行動のカテゴリをみつめよう
 - 第4回 ギリギリセーフ！をみつめよう
 - 第5回 ギリギリセーフ！をきわめよう
 - 第6回 ペアプロでみつめたことを確認しよう
- ～楽しい子育てにつながるポイントを学びます～



裏面もご覧ください

山口県長門市（連携団体：ブルースター）（A4 両面）

会場

地域医療連携支援センター

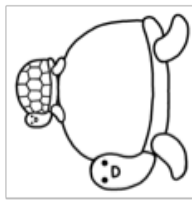


開催日時

- | | | | |
|-----|-------------|-----|------------|
| 第1回 | 12月 7日 (日) | 第4回 | 1月 17日 (土) |
| 第2回 | 12月 20日 (土) | 第5回 | 1月 31日 (土) |
| 第3回 | 1月 10日 (土) | 第6回 | 2月 21日 (土) |
- 時間はすべて、13:30～15:00

その他

- ・ 受講料は無料です。
- ・ 筆記用具をご持参ください。
- ・ お子様の入室はご遠慮いただきます。
- ・ 託児はございません。
- ・ 全6回受講を原則としますが、ご不明な点はお相談ください。
- ・ 受講決定者には改めてご連絡しますが、11/30 (日) までにご連絡がいかない場合はお問い合わせください。



申込先

申込方法：郵送、FAX、メールのいずれかでお申し込みください。
申込先：
郵送 〒759-4106 長門市東深川 1339-2 長門市役所福祉課福祉係 宛
FAX (0837) 23-2061
メール fukushi@city.nagato.lg.jp

★申込受付 11月 22日 (土)

お問い合わせ先
長門市役所 市民福祉部
福祉課 福祉係
担当：木下
TEL：0837-23-1243
FAX：0837-23-2061

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

「子育てにおける保護者支援と 支援者研修事業」 国東会場 (全6回)

ペアレント・プログラム講座のご案内

主催：特定非営利活動法人アスベ・エルデの会
共催：社会福祉法人 秀溪会
協力：国東市・国東市教育委員会

子どもの困った「行動」に頭を悩ませていませんか？
出来るところをみつけて、ほめるコツを学びませんか？

このプログラムは、子育てに難しさを感じる保護者の方が、お子さんの「行動」の客観的な理解の仕方を学び、楽しく子育てに臨む自信を身につけること・子育ての仲間を見つける機会とすることを目的とした、全6回のプログラムです。ぜひ、ご参加ください。

今回の事業は支援者の研修も兼ねているため、資格が受けられているペアレント・プログラムをまわりで見学するというかたちで複数の支援者も参加することでご理解の上、ご参加ください。今後の支援の広がりのため、ご協力よろしくお願いたします。

対象

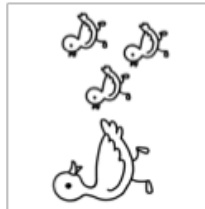
幼児～小学生の子を持つ保護者の方（原則、全6回参加できる方）
【15名程度】

講師

辻井正次 氏（中央大学現代社会学部 教授/浜松医科大学子どもこころの発達研究センター 特任助教/特定非営利活動法人 アスベ・エルデの会 代表）他

プログラム内容

- 第1回 ガイダンス・現状把握表を書いてみよう
 - 第2回 行動で考えよう
 - 第3回 行動のカテゴリをみつけよう
 - 第4回 ギリギリセーフ！をみつけよう
 - 第5回 ギリギリセーフ！をきわめよう
 - 第6回 ペアプロでみつけたことを確認しよう
- ～楽しい子育てにつながるポイントを学びます～



裏面もご覧ください

大分県国東市（連携団体：秀溪会）（A4 両面）

会場

アストくにさき（大分県国東市国東町鶴川160-2：市役所近く）

第1回：2階和室

第2～6回：マルチホール

開催日時

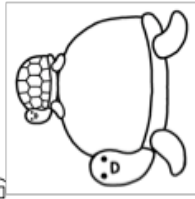
第1回 12月 13日(土) 第4回 1月 18日(日)

第2回 12月 21日(日) 第5回 2月 1日(日)

第3回 1月 11日(日) 第6回 2月 22日(日)

※ 時間はすべて、10:00～11:30

※ 1回のみ、土曜日です。



その他

- ・受講料は無料です。
- ・筆記用具をご持参ください。
- ・お子様の入室はご遠慮いただきます。
- ・託児がございません。必要な方は、申込時にご連絡ください。
- ・全6回受講を原則としますが、ご不明な点はお相談ください。
- ・受講決定者には改めてご連絡しますが、12/5(金)までにご連絡がいかない場合はお問い合わせてください。

申込先

電話かFAXでお申し込みください。

★ 申込〆切 11月 28日(金)

申込・お問い合わせ先：

国東市国東町小阪3233-1

いきいきっ子クラブ

(児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業)

TEL 0978-69-0680

FAX 0978-73-2512

(担当 鹿島)

..... FAX の場合、以下にご記入の上、このページをお送りください

参加される方のお名前		
お子さんの年齢・性別	才	男・女
連絡先住所		
電話番号		
既婚の希望	あり ・ なし	

※いただいた個人情報は今回の事業の参加者集約以外の目的には使用致しません。

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

「子育てにおける保護者支援と 支援者研修事業」 対馬会場 (全6回)

「楽しい親子関係作りのプログラム」のご案内

～ペアレント・プログラム～

主催：特定非営利活動法人アスベ・エルデの会
共催：あいネットつしま

子どもの困った「行動」に頭を悩ませていませんか？
出来るところをみつけて、ほめるコツを学びませんか？

このプログラムは、子育てに難しさを感じる保護者の方が、お子さんの「行動」の客観的な理解の仕方を学び、楽しく子育てをする自信を身につけること・子育ての仲間を見つける機会とすることを目的とした、全6回のプログラムです。ぜひ、ご参加ください。

今回の事業は支援者の研修も兼ねているため、皆様が受けられているペアレント・プログラムをまわりで見学するというかたちで複数の支援者も参加することでご理解の上、ご参加ください。今後の、対馬における支援の広がりのため、ご協力よろしくお願いたします。

対象

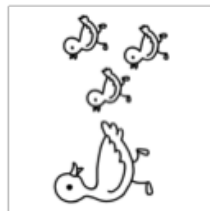
幼児～小学生の子を持つ保護者の方 (原則、全6回参加できる方)
【15名程度】

講師

辻井正次 氏 (中京大学現代社会学部 教授/NPO 法人アスベ・エルデの会 代表)
村山恭朗 氏 (浜松医科大学子どもこころの発達研究センター 特任助教)

プログラム内容

- 第1回 ガイダンス・現状把握表を書いてみよう
 - 第2回 行動で考えよう
 - 第3回 行動のカテゴリーをみつけよう
 - 第4回 ギリギリセーフ！をみつけよう
 - 第5回 ギリギリセーフ！をきわめよう
 - 第6回 ヘアプロでみつけたことを確認しよう
- ～楽しい子育てにつながるポイントを学びます～



裏面もご覧ください

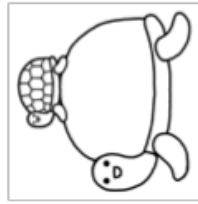
長崎県対馬市 (連携団体：あいネットつしま) (A4 両面)

会場

対馬市交流センター 3階第3会議室
(〒817-0021 対馬市厳原町今屋敷 661-3)

開催日時

第1回 12月 5日 (金) 第4回 1月 30日 (金)
第2回 12月 19日 (金) 第5回 2月 20日 (金)
第3回 1月 9日 (金) 第6回 3月 6日 (金)
時間はすべて、19:30～21:00



その他

- ・受講料は無料です。
- ・筆記用具をご持参ください。
- ・お子様の入室はご遠慮いただきます。
- ・託児はございません。
- ・全6回受講を原則としますが、難しい場合はご相談ください。
- ・受講決定者には改めてご連絡しますが、11月中にご連絡がいかない場合はお問い合わせください。

申込方法

メールか電話でお申し込みください。

メール 下記「必要事項」を入力し、申し込み先アドレスに送信ください。

「必要事項」

①氏名 ②連絡先電話番号 ③お子さんの年齢 (学年)・性別

④子育ての中で気になることや心配なこと (もしあれば)

※①②は本事業の参加者集約のため、③④はプログラム実施の参考のために使用させていただきます。本事業以外に用いることはありません。

電話 メールが使用できない場合等はお電話での受け付けも行います。

ただし、電話の場合すぐに応対できない場合がございますが、後程事務局よりご連絡いたします。その際下記事務局の番号以外の番号からの連絡になりますことあらかじめご了承ください。

★申込バッチ 11月 25日 (月)

【申し込み・お問い合わせ先】
あいネットつしま事務局 (担当：脇山)
【電話】080-9246-5718 (あいネットつしま事務局)
【メール】ainettsushima@gmail.com

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
「子育てにおける保護者支援と支援者研修」事業

ペアレント・プログラムの概要

ペアレント・プログラムとは？

ペアレント・トレーニング(ペイトレ)
応用行動分析(ABA)を基本に、目標行動の設定、行動の機能分析、環境調整や子どもへの肯定的な働きかけを習得していく支援技法

ペアレント・プログラム(ペアプロ)
ペイトレの入門編
「行動で考える／行動で見る」ことに特化し、保護者の認知的な枠組の修正を旨としたプログラム

ペアプロとペイトレの関係

ペアレント・トレーニング応用編
(障害特化型のプログラム)

ペアレント・トレーニング(精研・奈良方式・肥前式)
(習め方を覚える・問題行動への対応の仕方を知る)

**ペアレント・プログラム
(行動で見る／行動で考える)**

ペアプロはペイトレにつながる支援の土台

ペアプロの対象者

今回の事業におけるペアプロの主な対象は未就学～小学生の子を持つ母親。

ひきこもりへの支援

ペアプロ

ペイトレ

学校におけるペアプロ

0 1 3 保育園 小学校 中学校 高校・成人...

対象者は全年齢段階の保護者・生涯発達支援!

ペアプロの役割

保護者支援

子育て支援

これまでの支援形態

ズレ

保護者の実際のニーズ

社会モデル: 各地域に今ある資源を活用していく
ペアプロはそのための共通支援プログラム

ペアプロの3本柱

- ・「**行動**」で考える
現状把握表の作成
- ・**できたことをほめて対応する**
叱って適切な行動を身につけるのは困難
- ・**お母さんの子育て仲間をみつける**
母親が一人で抱え込んでしまいやすい
「私だけじゃないんだ!」という確認

ペアプロの流れ

第1回	ガイダンス、現状把握表の書き方
第2回	行動で書く
第3回	行動の 카테고리をみつける
第4回	ギリギリセーフ！をみつける
第5回	ギリギリセーフ！をきわめる
第6回	ペアプロでみつけたことを確認する

第1回:ガイダンス、現状把握表を書く!

ガイダンス
日本の子育て観について(吃って気づかせて育てる)
出来ることを伸ばしていくことの大切さ
それらにむけて現状を把握することの意味

ワーク
●現状把握表の書き方を大まかに理解する

・プログラム全体を通して完成させていく
・【自分編】【子ども編】のふたつを作成

●“いいところ”“努力しているところ”“困っているところ”3つずつ書く

宿題
・自分編・子ども編でそれぞれ5つ項目を書く
・夫など身近な家族(大人)を替えて、反応を見る。

★具体的に書く
★「～する」表現で書く

現状把握表を作る利点

いいところ	努力しているところ	困ったところ
×使ったところ ×すごいところ ↓ ○適応行動＝ 今できているところ	「努力しよう！」と 思ったら、もう努力し ている項目！	・この項目の行動は 今すぐ改善できる？ ・難しい！ でも何とかなっている のはなぜ？

・保護者自身と子ども、それぞれ現状把握表を作る
→ 自己理解・子ども理解を促進する。
・できている、努力している行動を見つけやすくなる
→ 自分と子どもを肯定的にとらえやすくなる。
・支援者とも共通理解をしやすくなる。

引き算
ではなく
足し算に

現状把握表を書く! の例

具体的に書く・「～する」表現で書く

現状把握表【自分編】		
いいところ	努力しているところ	困ったところ
朝もい 一明るくあいさつする	午後早起き →夜は目覚める前に着 るようになっている	子どもが言うことをきかないと イライラする
子どもが泣いても声かけない →子どもが泣いても怒らない ように顔の表情で深呼吸する	部屋が散らかっていたら片付 けている	料理が苦手な時間がかかる
		お菓子を毎日食べる
		使ったと夫の話を聞かなくな る

第2回:行動で書く!

人より使っている
ところではない!

ガイダンス
“いいところ”の意味(普段できていること)を再度説明する
行動で書くことのポイントを説明する
-「～ない」ではなく、「～する」になっているかどうか
-2つの行動が含まれる文章は2つにわかる

ワーク
●宿題の発表
●ペアでお互いの現状把握表をチェックしあう。
●“努力しているところ”から“いいところ”への移行。
→ペアでいいところ探し。意外と頑張っている。
●“困ったところ”から“努力しているところ”への移行
→気付けている時点で“努力”。

宿題
・自分編・子ども編の各項目について、さらに5つずつ書く。
・夫など身近な家族(大人)を替えて、反応を見る。

具体的な行動で伝えてみよう

例題:以下の言葉を「～ない」表現から「～する」表現に
変えてみましょう!

- ①「廊下を走らない！」 → 「廊下を・・・」
- ②机に座っているとき「騒がない！」 → 「・・・」
- ③(自分にも)「子どもに怒鳴らない」 → 「・・・」

※「～しない」と注意するだけでなく、
どうすればいいのかを**具体的な行動**で教えてあげると
分かりやすいですね!

行動で書く！の例 困ったところ・努力しているところからの移行

現状把握表【自分編】		
いいところ	努力しているところ	困ったところ
明るく 一明るくあいさつする	早寝早起き 一日は日付が変わる前に寝るようにつけています	子どもが言うことをきかないとイライラする
子どもが泣いても平気な 一子どもが泣いても怒らないように隣の部屋で深呼吸する	部屋が散らかっていたら片付けています	料理が苦手な時間がかかる
部屋が散らかっていたら片付けています	レシピを見ながら工夫して料理をつくる	お菓子を毎日食べる
時間はかかるが毎日食事を用意している		寝れると夫の話を聞かなくなる

第3回：同じカテゴリーを見つける！

ガイダンス
行動を似たものに分類することによって、子どもの傾向をつかみやすくなることを説明する

ワーク

- 宿題の発表
- 書き出した行動を似たカテゴリー同士に集める
 - (自分編)家事・健康管理・対人関係・仕事・・・など
 - (子ども編)食事・友達関係・行動の調節・・・など
- カテゴリーごとの特徴を見つけ合う
 - 困ったところにありがちな行動特徴に気づく

宿題

- ・現状把握表をカテゴリー分けする(自分編・子ども編)
- ・子どもを誉めてみて、反応を見る

カテゴリー分けの例

現状把握表【自分編】		
いいところ	努力しているところ	困ったところ
明るく 一明るくあいさつする	早寝早起き 一日は日付が変わる前に寝るようにつけています	子どもが言うことをきかないとイライラする
子どもが泣いても平気な 一子どもが泣いても怒らないように隣の部屋で深呼吸する	部屋が散らかっていたら片付けています	料理が苦手な時間がかかる
部屋が散らかっていたら片付けています	レシピを見ながら工夫して料理をつくる	お菓子を毎日食べる
時間はかかるが毎日食事を用意している		寝れると夫の話を聞かなくなる

※実際には並べ替えます

第4回：ギリギリセーフを見つける！

ガイダンス
“困っているところ”の中にも、日常生活を送るためになんとかやれていること＝ギリギリセーフ(対処行動)があることを説明する

ワーク

- 宿題の発表
- ペアでギリギリセーフを見つける(自分編・子ども編)
 - 子どもの場合、発達段階や本人の特性によってはギリギリセーフ(対処行動)が見つからない場合もある。その時は、保護者が手伝うことで子どもがなんとかやれていることに気づく。

宿題

- ・現状把握表をカテゴリーごとに整理する
- ・子どもを誉めてみて、反応を見る
- ・夫など身近な家族に表を見てもらい、感想を聞く

ギリギリセーフを見つける！の例

現状把握表【自分編】		
いいところ	努力しているところ	困ったところ
明るく 一明るくあいさつする	早寝早起き 一日は日付が変わる前に寝るようにつけています	子どもが言うことをきかないとイライラする
子どもが泣いても平気な 一子どもが泣いても怒らないように隣の部屋で深呼吸する	(部屋が散らかっていたら片付けています)	料理が苦手な時間がかかる →レシピ通りにやればできる
部屋が散らかっていたら片付けています	レシピを見ながら工夫して料理をつくる	お菓子を毎日食べる →お菓子の量を決めている →10時過ぎたら食べない
時間はかかるが毎日食事を用意している	お菓子を食べる量を決めて、小袋のものを買うようにしている	寝れると夫の話を聞かなくなる

第5回：ギリギリセーフをきわめる！

ガイダンス
ギリギリセーフが起りやすい状況・起りにくい状況があることを説明する

ワーク

- 「いつ」「どこで」「誰と」「何を」するときに、ギリギリセーフが起りやすい／起りにくいのか、明らかにする
- ペアで話し合い、相手のギリギリセーフを見つける

宿題

- ・現状把握表を完成させる
- ・夫など身近な家族に表を見てもらい、感想を聞く
- ・子どもを誉めてみて、反応を見る

ギリギリセーフをきわめる！の例

現状把握表【自分編】		
いい	ギリギリセーフにギリギリのほ…	困ったところ
朝の準備が早い →朝早く起きる	ギリギリセーフにギリギリのほ… 【いつか】時間には余裕があるとき	子どもが言うことをきかないと イライラする
子どもが遊びたい →子どもが話さずに遊びたい	ギリギリセーフにギリギリのほ… 【いつか】時間には余裕がないとき、遅れているとき 【いつか】外出先 【誰と？】子ども1人だけで遊ぶ	料理が苦手な時間がかかる →レシピ通りにやればできる
料理が知らなかったら片付けている	レシピを見ながら工夫して料理をつくる	お菓子を毎日食べる →お菓子の量を決めている →1回過ぎたら食べない
時間はかかるが毎日食事を用意している	お菓子を食べる量を決めて、小袋のものを買うようにしている	寝れると夫の話を聞かなくなる

第6回：ペアプロで見つけたことを確認する！

最終回のまとめ

- グループ参加に対する労い
- プログラムのまとめ・復習
- 今後のフォローの場について
- 地域で利用可能な相談機関や支援場所を紹介する**

地域の支援機関の一覧等あれば最終回までに講師にご提供いただけると助かります。

ワーク

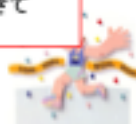
- 現状把握表の完成版を、1・2回目に作成したものと比較し、ペアで意見交換・発表する。
→ **自分の見方の変化、子供の成長に気づく**
- 6回のグループ参加を通じた体験の共有（感想を聞く）

ペアプロ終了時の目標

ほめ方のバリエーションが増え、子どもにどんなほめ方が有効かが見えてくる

現状把握表を作り、子どもの特徴を行動の視点で考え、してほしい行動を伝えられる

自分の子どもが、どんなときにうまくできて、どんなときはうまくできないかを知る



“宿題”を導入する目的

- ・夫など身近な家族に働きかけをすること。
→ 家族を子育てのサイクルに巻き込み、**味方をつくる**
→ 自分の働きかけが変わると、相手の反応が変わることを体験する。
- ・家で現状把握表を完成させること。
→ 家庭内でも“枠組み”にそって考える**習慣をつける**
- ・実際にできる工夫を家でやってみること。
→ **工夫することが、成功を産む体験を持つ**
→ **実践する癖をつける**

“お話”を一度聞くだけでは認知の変容は起きない！

ペアプロで必要な配慮

プログラム内の配慮

- ペアリングについて
- スタッフの声のかけかた
- 進行・時間配分

プログラム外(前後)の配慮

- 地域支援者とのグループに関する情報共有
- 欠席者へのワークの説明と誘いかけ
- 他機関での気になる母親への働きかけ
- グループ運営に関するSV

現状把握表を書いてみよう

現状把握表を書いてみよう

いいところ	努力しているところ	困ったところ
× 明るい ↓ ○ 明るく挨拶する		× 頑固 ↓ ○ 何度も同じことをする

- ・行動で考える！ → “性格”は×
- ・行動なので、動詞で → ×形容詞・形容動詞
- ・シンプルに1つの内容を1つの文で！
- ・抽象的な内容ではなく、具体的な内容で！

現状把握表を書いてみよう

いいところ	努力しているところ	困ったところ
○朝は目覚まし時計で自分で起きる ○着替え・トイレ・お風呂が自分でできる ○学校で通常の仕事を決められたとおりができる。	○イライラしたら深呼吸する ○出されたメニューの中で、苦手なものがあったも、ひと口だけ食べる。	○声の大ききの調節ができないので大声になる。 ○ひとりごとを言う。 ○偏食。 ○乱れた気持ちの切りかえを早くする。

いいところ＝適応行動

日常生活の中で、普段できていること

※ 他人より優れているところではない

※ 毎日できていることはいいところと認識していく

<書き方のポイント>

-×-ない → ○-する

-短い文章で簡潔に書く

現状把握表を書いてみよう

いいところ	努力しているところ	困ったところ
○朝は目覚まし時計で自分で起きる ○着替え・トイレ・お風呂が自分でできる ○学校で通常の仕事を決められたとおりができる。	○イライラしたら深呼吸する ○出されたメニューの中で、苦手なものがあったも、ひと口だけ食べる。	○声の大ききの調節ができないので大声になる。 ○ひとりごとを言う。 ○偏食。 ○乱れた気持ちの切りかえを早くする。

努力しているところ

工夫すればできるところ

継続できないけれどできるようになってきていること

できていなくても続けてがんばろうと意識していること

<書き方のポイント>

-×-ない → ○-する

-短い文章で簡潔に書く

現状把握表を書いてみよう

いいところ	努力しているところ	困ったところ
○朝は目覚まし時計で自分で起きる ○着替え・トイレ・お風呂が自分でできる ○学校で通常の仕事を決められたとおりができる。	○イライラしたら深呼吸する ○出されたメニューの中で、苦手なものがあったも、ひと口だけ食べる。	○声の大ききの調節ができないので大声になる。 ○ひとりごとを言う。 ○偏食。 ○イライラな気持ちを切りかえられない

困ったところ

①緊急性が高いこと

②今すぐ取り組むことは無理なこと

(年齢的、または発達の順番的には難しい)


例)外で、勝手に歩いていってしまう。

<書き方のポイント>

-「-ない」でもOK。

-具体的に書く

ご清聴ありがとうございました



巻末付録⑤ アンケート用紙（保護者用）

ペアレント・プログラムの感想（参加者のみなさま）

1. 今回のプログラムの満足度についてお答えください。（☑をつけてください。）

とても満足 満足 不満 とても不満

2. ペアプロに参加したことで、お子さんへの関わり方について良かったこと・気づいたことはありますか？ 思いつくことをご自由にお書きください。

3. ペアプロに参加したことで、あなた自身について良かったこと・気づいたことはありますか？ 思いつくことをご自由にお書きください。

4. ペアプロで取り上げる内容・テーマは、満足されるものでしたか？（☑をつけてください。）

とてもよかった まあよかった どちらでもない あまりよくなかった とてもよくなかった

プログラムの内容について、ご感想やご要望などがございましたらご自由にお聞かせください。

5. 参加者同士でペアになって話し合ったり、発表したりしたことはいかがでしたか？

（☑をつけてください。）

とてもよかった まあよかった どちらでもない あまりよくなかった とてもよくなかった

ペアの話し合いや発表についてご意見やご感想がありましたら、ご自由にお書きください。

ペアレント・プログラムのアンケート（研修参加スタッフの方）

ペアレント・プログラム（ペアプロ）研修へのご参加ありがとうございました。今後、各地域にペアプロを普及していくにあたり、ペアプロの研修に関するご意見をいただければ幸いです。ご記入いただいた個人情報、匿名化した情報のみを扱い、個人名が外部に出ることは一切ございません。今回ご記入いただく“お名前”は、ペアプロ研修実施前にご回答いただいた調査結果と照合するためのみに用いられます。主旨ご理解の上、ご協力のほどお願い申し上げます。

会場コード：_____	お名前：_____	男・女 _____	歳 _____
勤務・所属機関 公立・民間（名称：_____）			
資格：_____	職名：_____	支援相談年数：_____	年 _____

1. 今回のペアプロ研修の、参加された回に☑をしてください。

1回目 2回目 3回目 4回目 5回目 6回目

2. ペアプロが取り上げる内容・テーマは、職員の方向けの研修として満足できるものでしたか？
（☑を付けてください。）

とてもよかった まあよかった どちらでもない あまりよくなかった とてもよくなかった
職員研修の視点から、ペアプロの中身・テーマについて、ご感想やご要望がございましたらご自由にお聞かせください。

3. ペアプロが取り上げる内容・テーマは、保護者のサポートとして役立つものでしたか？
（☑を付けてください。）

とてもよかった まあよかった どちらでもない あまりよくなかった とてもよくなかった
保護者支援の視点から、プログラムの中身・テーマについてご感想やご意見がございましたらご自由にお聞かせください。

4. 今回のプログラムの満足度についてお答えください（☑をつけてください）。

とても満足 満足 不満 とても不満

発行 特定非営利活動法人 アスペ・エルデの会
〒452-0821 名古屋市西区上小田井 2-187
メゾンドボヌー小田井 201 号室
TEL/FAX 052-505-5000
メール info@as-japan.jp